

根室市民の男女共同参画に関する意識調査報告書

令和 6 年 11 月 27 日

事業受託者：株式会社北海道二十一世紀総合研究所

目次

I. 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 実施概要	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査方法	1
(3) 調査期間	1
(4) 回収状況	1
(5) 回答者の属性	1
II. 調査結果	2
第1章 「性別による無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）」について	3
(1) 性別による固定的な役割分担について	4
(2) 家庭における男女共同について	8
(3) 女性の仕事について	18
(4) 学校における男女共同について（回答は学生のみ）	22
(5) 職場における男女共同について（回答は学生以外のみ）	23
(6) 地域社会における男女共同について	26
第2章 家庭や職場におけるハラスメントやDV被害の実態について	27
(1) ハラスメント被害について	28
(2) DV被害について	30
第3章 市民への男女共同参画の取組の浸透について	34
(1) 根室市男女共同参画基本計画を知っている市民割合	35
(2) 根室市の男女共同参画の取り組みを知っている市民の割合	37
(3) 根室市において男女共同参画社会を実現するために必要な取り組み	40
第4章 市民における「多様性」に対する認識について	43
(1) 一人ひとりの多様性が尊重される社会を目指す必要性について	44
(2) パートナーシップ制度の導入を目指す必要性について	45
第5章 自由意見からみる市民の考えについて	46
(1) その他意見、自由意見（原文ママ）	46
第6章 まとめ	49

I. 調査の概要

1. 調査目的

「第3次根室市男女共同参画基本計画」を策定するに当たって、市民の男女共同参画に関する意識や実態を把握し計画策定の参考とするため、令和6年8月20日から1ヶ月間、アンケート調査を実施した。

2. 実施概要

(1) 調査対象

中学生以上の全ての根室市民（令和6年7月末現在値 20,986人）

(2) 調査方法

オンライン回答

(3) 調査期間

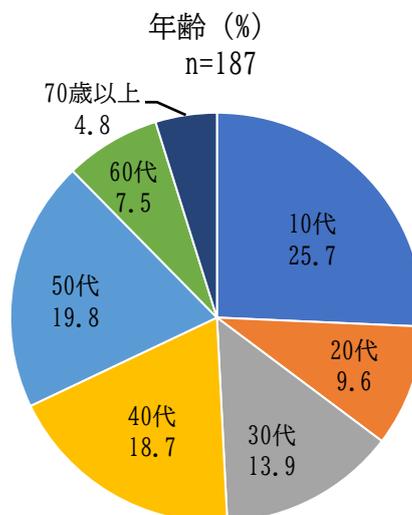
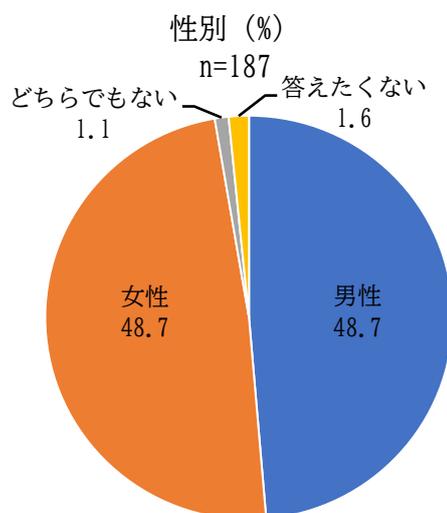
令和6年8月20日～令和6年9月20日

(4) 回収状況

回収数 187件

(5) 回答者の属性

- ・ 回答者は男性48.7%、女性48.7%と男女比が1:1である。
- ・ 年齢構成は10代(25.7%)が最も多く、次いで50代(19.8%)、40代(18.7%)が多い。



II. 調査結果

【集計結果の標記方法の留意事項】

- ・ 本報告書内の図表においては、有効回答数を「n」で表記している。
- ・ 図表中の構成比（%）は、小数点第2位以下を四捨五入したものであり、端数処理のため、合計は必ずしも100%にならない場合がある。

第1章 「性別による無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）」について

第1章では、育ってきた環境によって根室市民の潜在意識下に刷り込まれた、自分自身では気づいていない「性別による無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）」について掘り起こす。

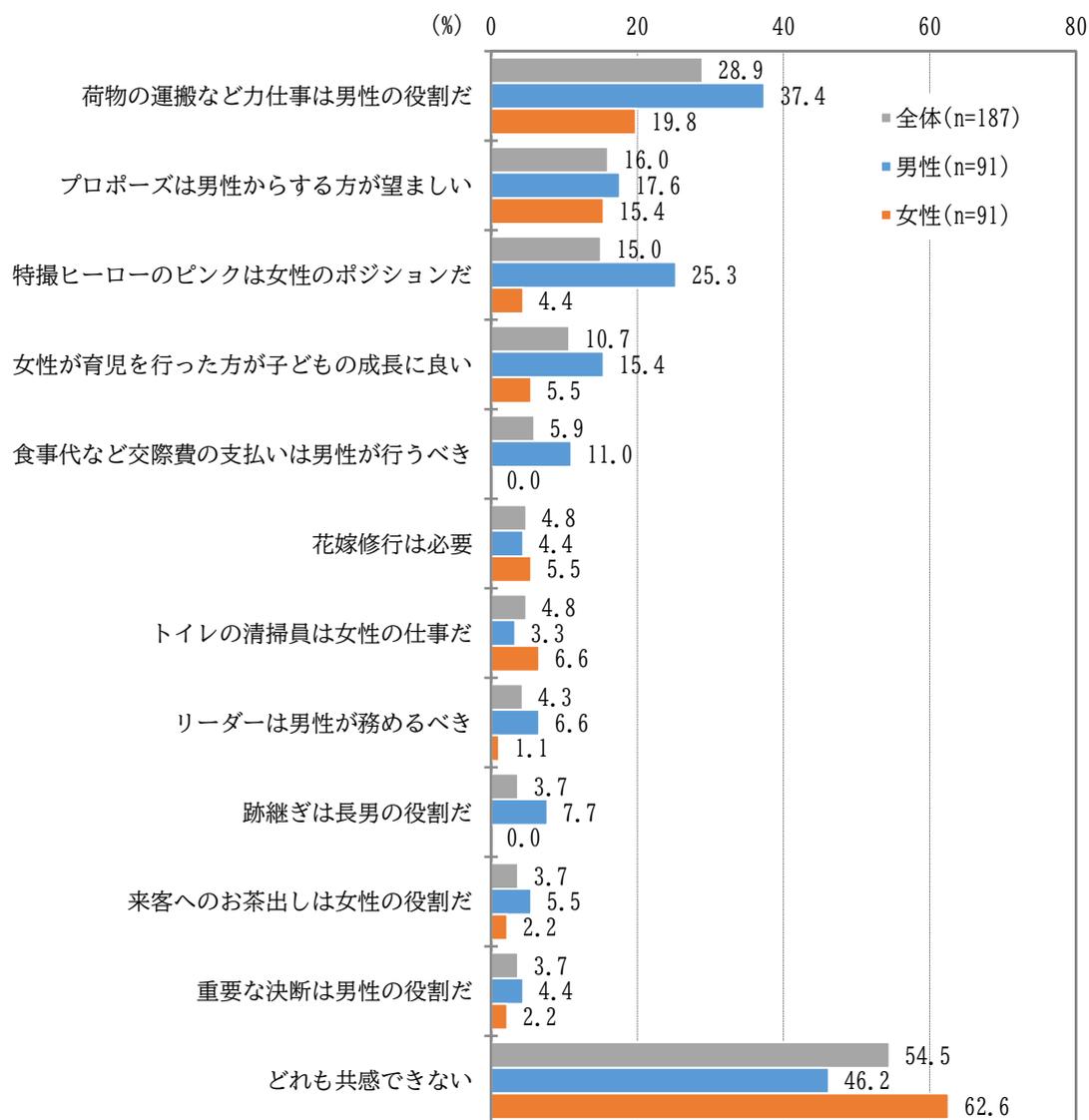
【結果の要約】

- ・ 家庭、学校、職場における男女の平等感について、国の調査と比較すると、国よりも根室市においては男女「平等」と感じる方が多い傾向にあるものの、性別や年齢区分でみると次のような特徴がみられる。
- ・ 性別でみると、日常生活全般において「男性が優位と感じる」の割合が男女間で大きな差があり、男性以上に女性が男性優位と感じている。特に、職場においてはその傾向が顕著であり、年齢層が上がるに従ってその傾向が強くなる。
- ・ 性別による固定的な役割分担に対して、「どれも共感できない」と答えた人が半数以上である。20～30代では、「荷物の運搬は男性の役割」「プロポーズは男性から」「特撮ヒーローのピンクは女性のポジション」という考え方に共感する割合が全体よりも高い傾向にある一方、それ以降の年齢層では、「どれも共感できない」とする回答が他の回答よりも多く、役割分担への固定観念が比較的少ないことが窺える。
- ・ 家庭では、男女平等を感じる人が全体の約6割で、特に10代では8割以上と最も多い。一方で、20代以上では、男女平等を感じる人が半数以下となり、特に40代以上では男性優位と感じる人が半数程度に増加する。この差は、家庭内での役割分担や育児への取り組み方が年齢層によって異なることが影響していると考えられる。
- ・ 家庭におけるパートナーとの役割分担では、理想としてはすべての項目について男女どちらも実施が多くなっているものの、実際には女性のほうが実施している割合が多く、理想と現実に乖離があることがわかる。また、こうした役割分担の偏りが女性が仕事を続けるうえで障害となっているものとして「家庭において家族の協力が得られない（家事、育児、介護との両立）」が6割以上となっている要因の一つと考えられる。
- ・ 職場や地域社会では、特に女性が「男性優位」と感じる割合が高く、20代以上では年齢が上がるほど「平等を感じる」が少なくなり、「男性が優位と感じる」が多くなる傾向がみられる。

(1) 性別による固定的な役割分担について

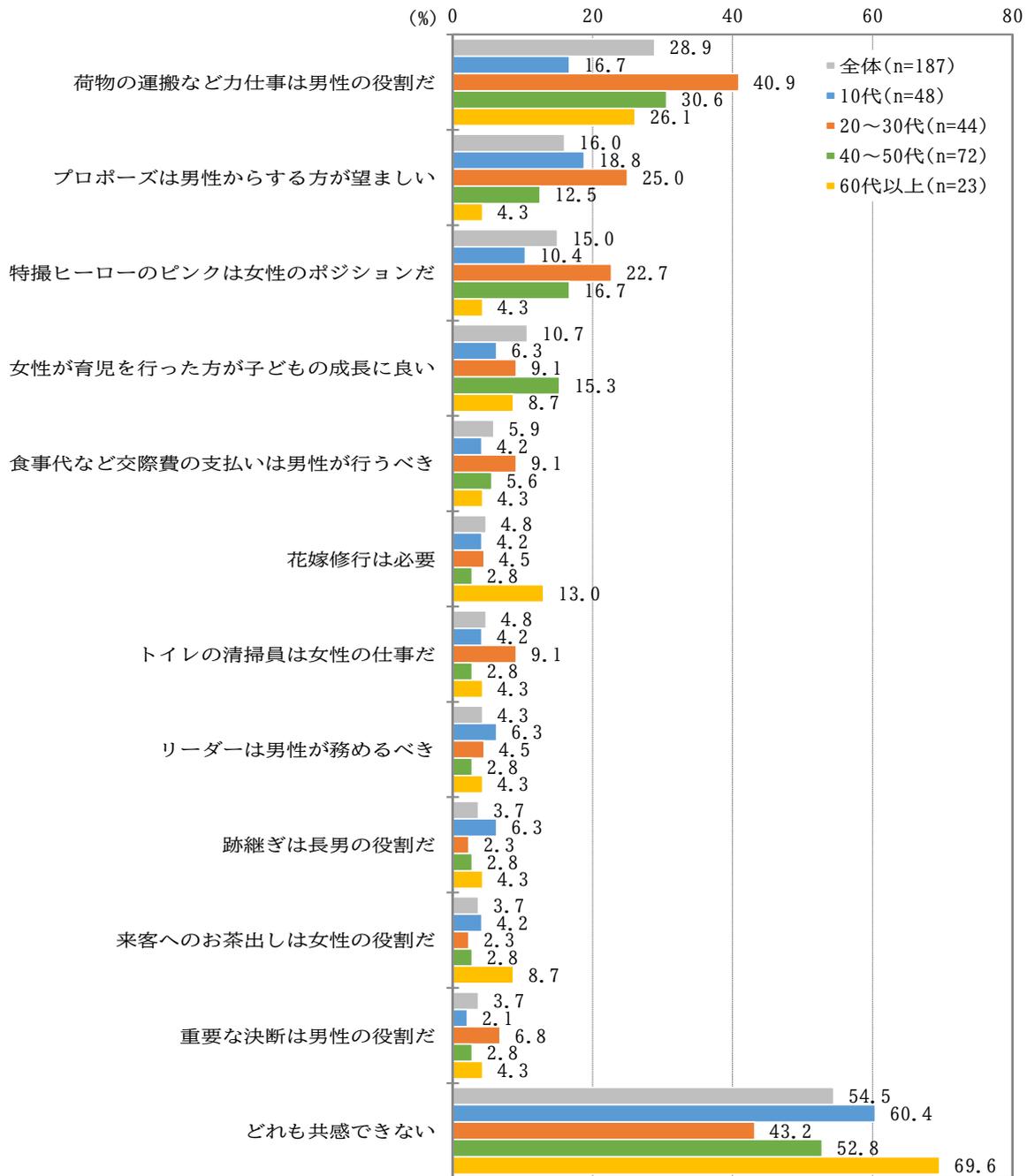
① 性別による固定的な役割分担意に対する意識について

【男女別の回答結果】



- 全体で見ると「どれも共感できない」(54.5%)が最も多く、次いで「荷物の運搬など力仕事は男性の役割だ」(28.9%)が多い。
- 性別で見ると、「どれも共感できない」「荷物の運搬など力仕事は男性の役割だ」「特撮ヒーローのピンクは女性のポジションだ」「女性が育児を行った方が子どもの成長に良い」については、男女間で差があり、男性のほうが固定的な役割分担に対する意識が強い。

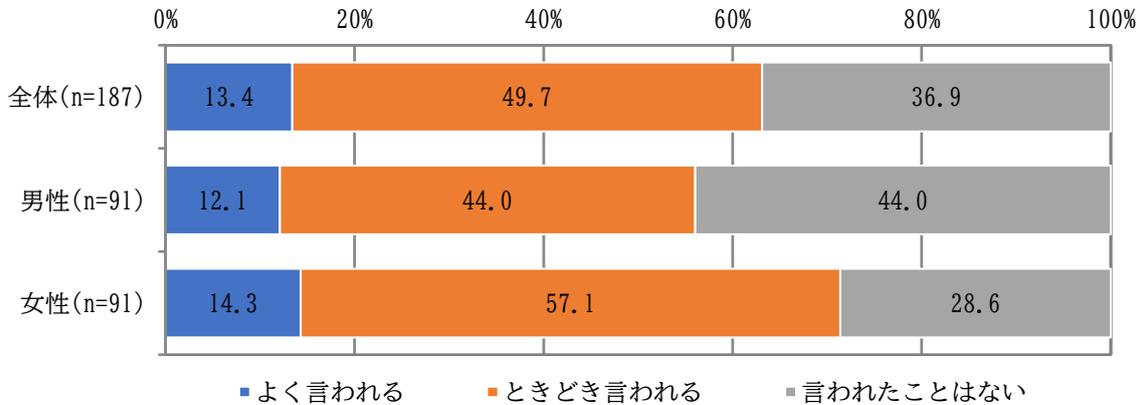
【年齢別の回答結果】



- 年齢区分で見ると、いずれの年齢区分においても「どれも共感できない」が最も多いものの20~30代においては「荷物の運搬など力仕事は男性の役割だ」「プロポーズは男性からする方が望ましい」「特撮ヒーローのピンクは女性のポジションだ」が全体に比べ多い傾向にある。また、10代においては「荷物の運搬など力仕事は男性の役割だ」が全体や他の年齢区分に比べて低い傾向にあるが、これは回答者の多くが学生であり、想定する力仕事が社会人と比べて限定的であることが影響している可能性がある。

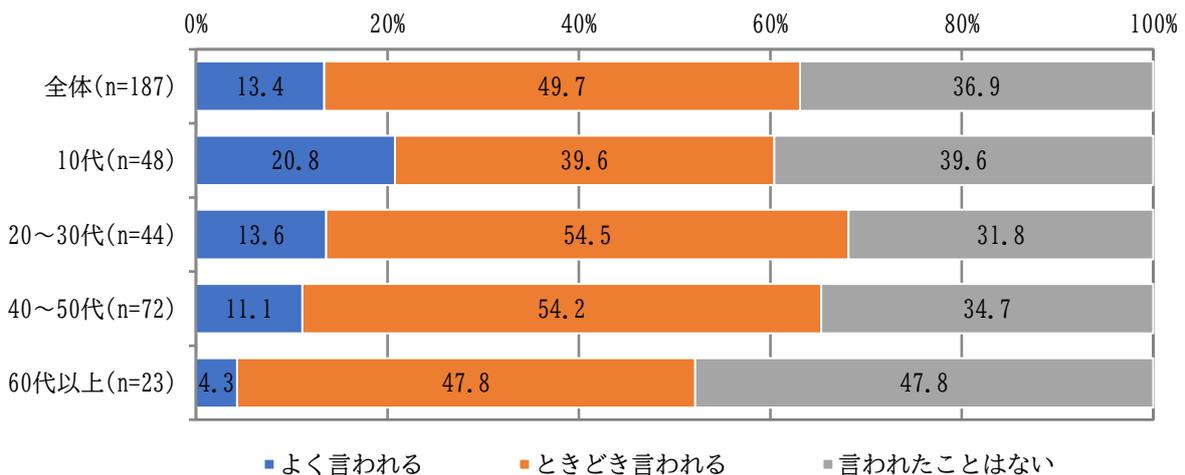
②「女だから」「男だから」と言われたことがある市民の割合

【男女別の回答結果】



- 全体でみると、「ときどき言われる」(49.7%)が最も多く、次いで「言われたことはない」(36.9%)が多い。
- 性別でみると、「ときどき言われる」「言われたことはない」については男女間で差があり、男性に比べ女性のほうが性差別的な発言を受けたことがある割合が高い。

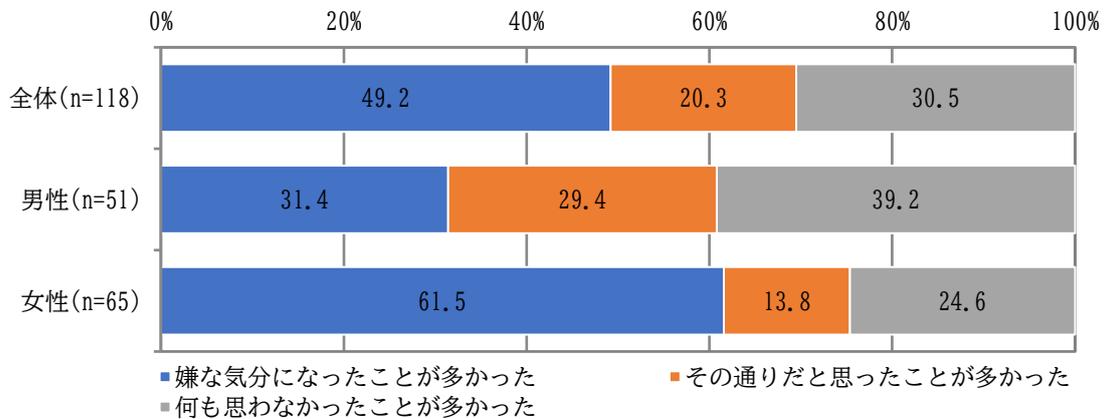
【年齢別の回答結果】



- 年齢区分でみると、若いほど「よく言われる」の割合が高い。「よく言われる」と「ときどき言われる」の合算で見ると20~30代が最も性差別的な発言を受けたことがある割合が高く、年齢が上がるにつれてその割合が低くなる。

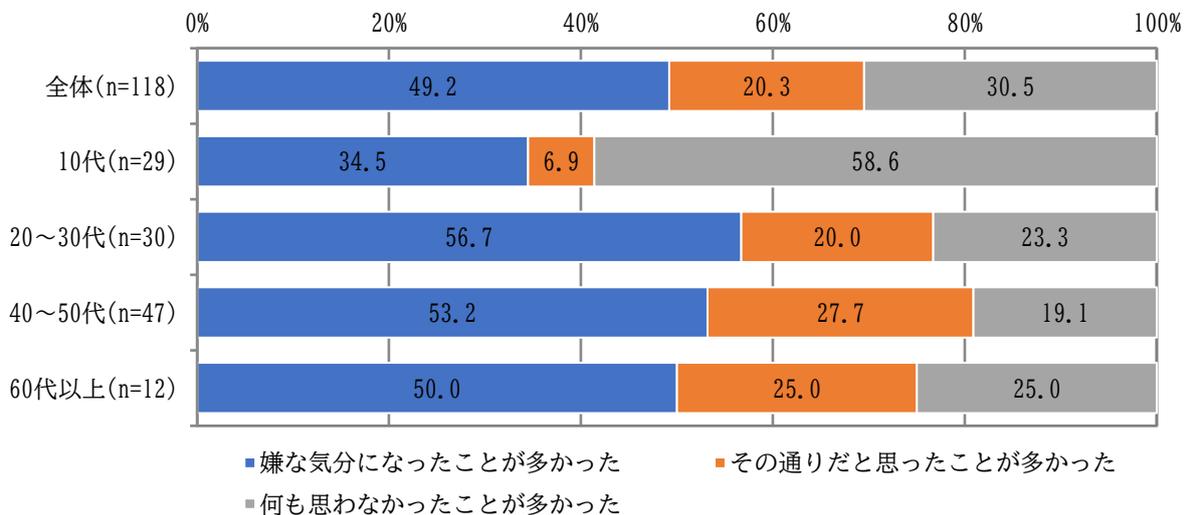
③「女だから」「男だから」と言われた時にどう感じたか

【男女別の回答結果】



- ・ 全体で見ると、「嫌な気分になったことが多かった」(49.2%)が最も多く、次いで「何も思わなかったことが多かった」(30.5%)が多い。
- ・ 性別で見ると、特に「嫌な気分になったことが多かった」の割合が男女間で大きな差があり、男性に比べ女性のほうが嫌な気分になったことが多くあることが窺える。

【年齢別の回答結果】

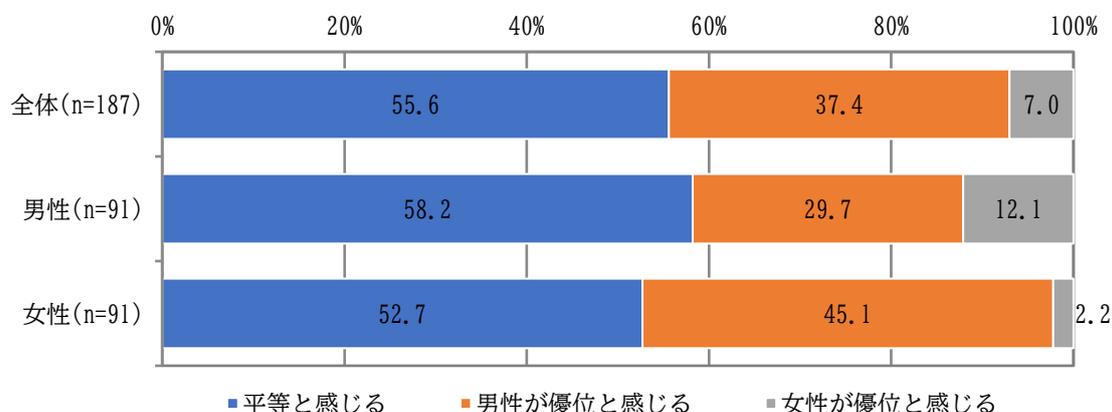


- ・ 年齢区分で見ると、10代では「何も思わなかったことが多かった」の割合が高く、20代以上では「嫌な気分になることが多かった」の割合が高い。このことから学生と社会人では、「女だから」「男だから」の捉え方が異なるとともに、特に社会人では性差別的な発言を受けることが増えることがこの結果に反映されていると考えられる。

(2) 家庭における男女共同について

① 家庭において男女が平等であると感じている市民の割合

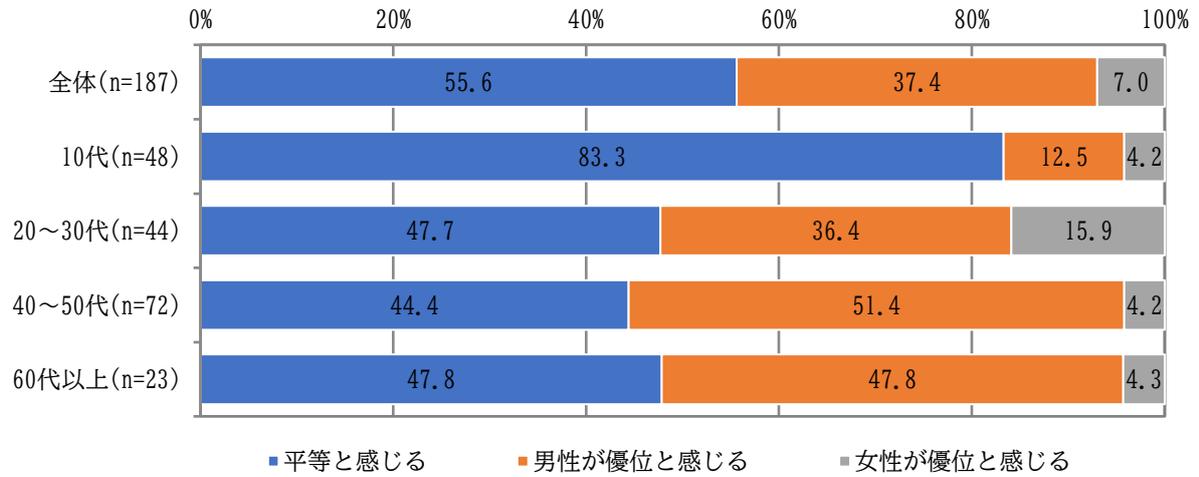
【男女別の回答結果】



- ・ 全体で見ると、「平等と感じる」(55.6%)が最も多く、次いで「男性が優位と感じる」(37.4%)が多い
- ・ 内閣府男女共同参画局「男女共同参画社会に関する世論調査(令和5年11月)」では、家庭生活における男女の地位の平等感について「平等」が31.7%、「男性の方が優遇されている」が59.8%、「女性の方が優遇されている」が8.0%となっており、根室市においては国よりも「平等」を感じる方が多いことが窺える¹。
- ・ 性別で見ると、特に「男性が優位と感じる」の割合が男女間で大きな差があり、男性以上に女性が男性優位と感じている。

¹ 内閣府男女共同参画局「男女共同参画社会に関する世論調査(令和5年11月)」における設問・選択肢と根室市で実施した調査の設問・選択肢が完全一致ではないため単純比較することは難しいが、設問の趣旨は一致していると考えられるため、ここでは根室市の調査結果と比較している。これ以降、同様の調査と結果を比較しているものについては同様の考え方である。

【年齢別の回答結果】

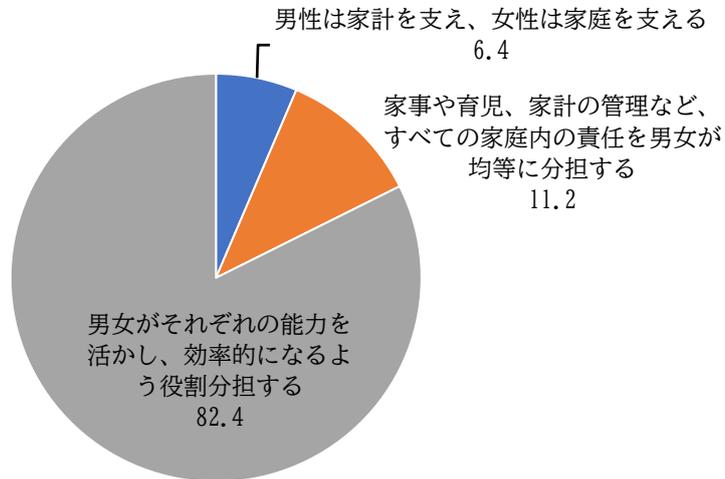


- ・ 年齢区分で見ると、10代においては「平等と感じる」が全体や他の年齢区分に比べて多い傾向にあるが、これは回答者の多くが学生であり、家庭での家族の様子を評価した結果である可能性がある。20～30代は全体と同様の傾向であるが、40代以上では、「男性が優位と感じる」が多い傾向である。

②「家庭における男女平等」の考え方

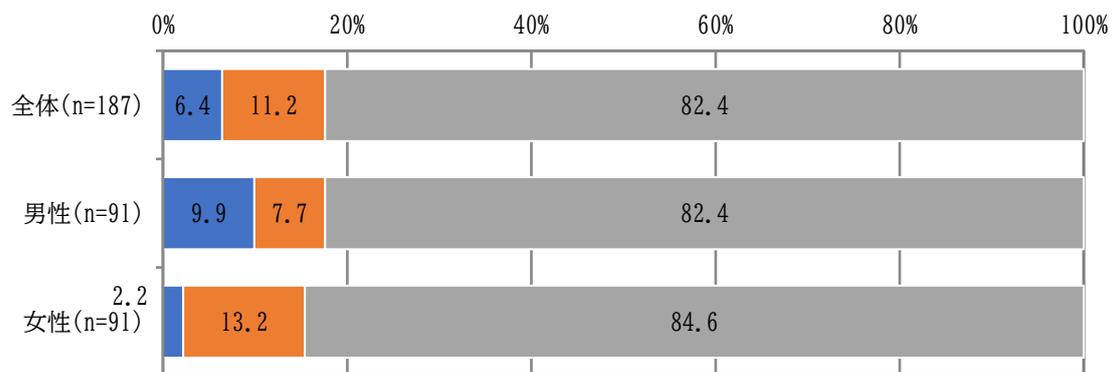
「家庭における男女平等」の考え (%)

n=187



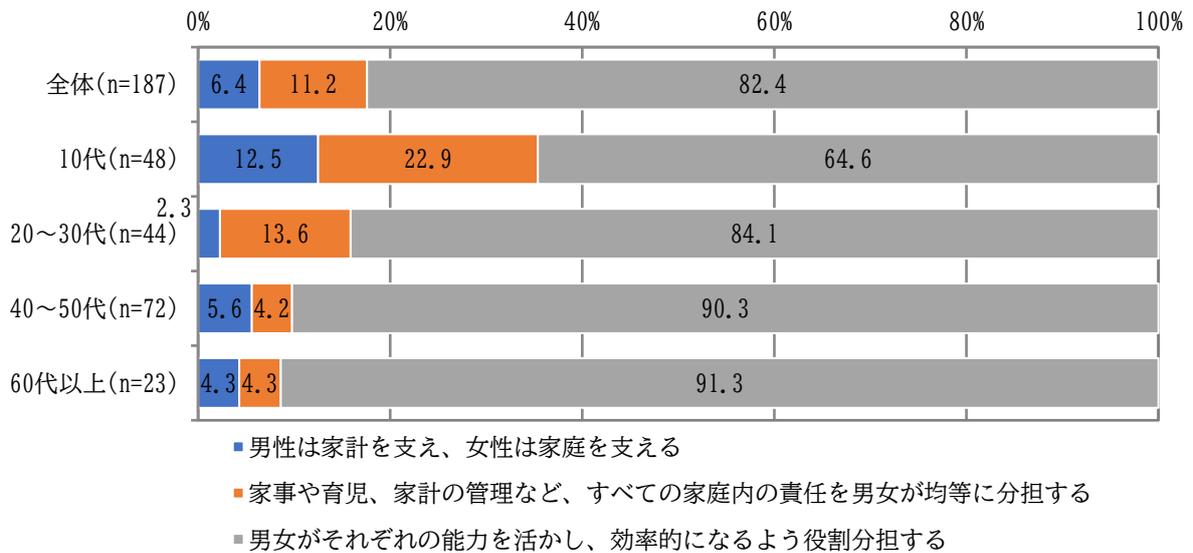
- ・ 全体でみると、「男女がそれぞれの能力を活かし、効率的になるよう役割分担する」(82.4%)が最も多い。

【男女別の回答結果】



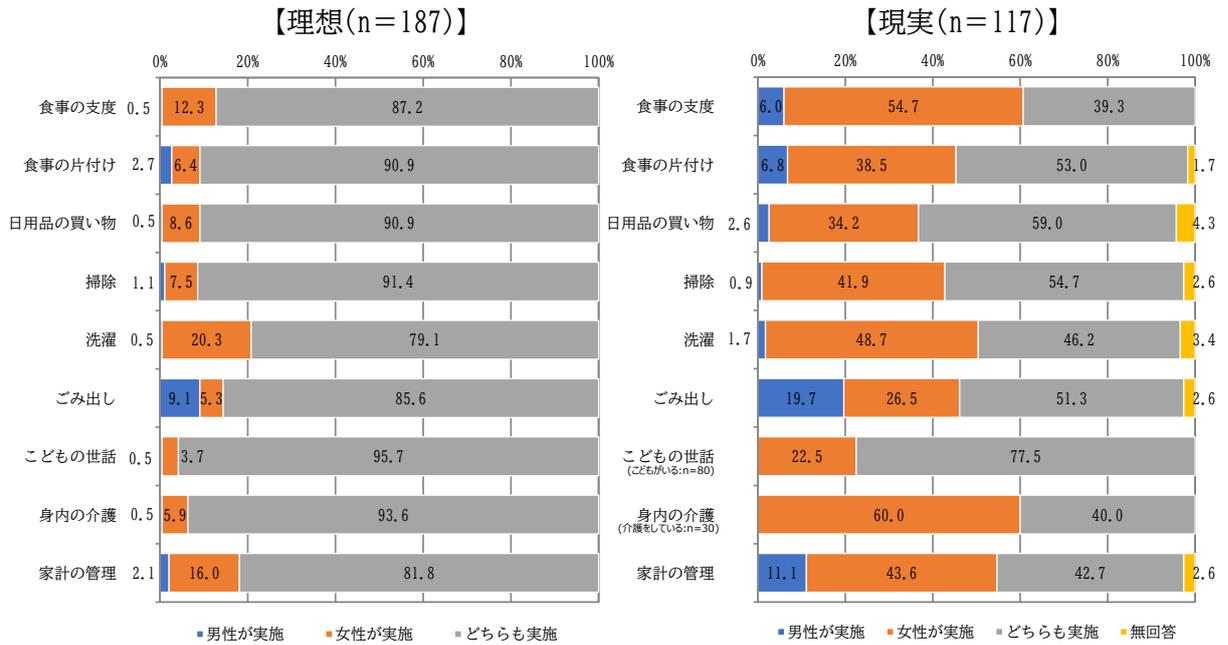
- ・ 性別でみると、男女で大きな差は見られず、共通して「男女がそれぞれの能力を活かし、効率的になるよう役割分担する」の割合が高い。

【年齢別の回答結果】



- ・ 年齢区分で見ると、20代以上では全体と同様の傾向にあるが、10代においては全体や他の年齢区分に比べ「男性は家計を支え、女性は家庭を支える」「家事や育児、家計の管理など、すべての家庭内の責任を男女が均等に分担する」が多いのが特徴的であり、学生と社会人とで家庭における男女平等の考え方に差があることが窺える。

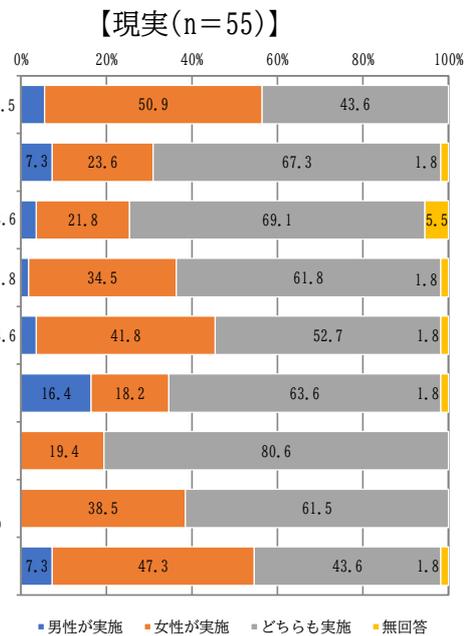
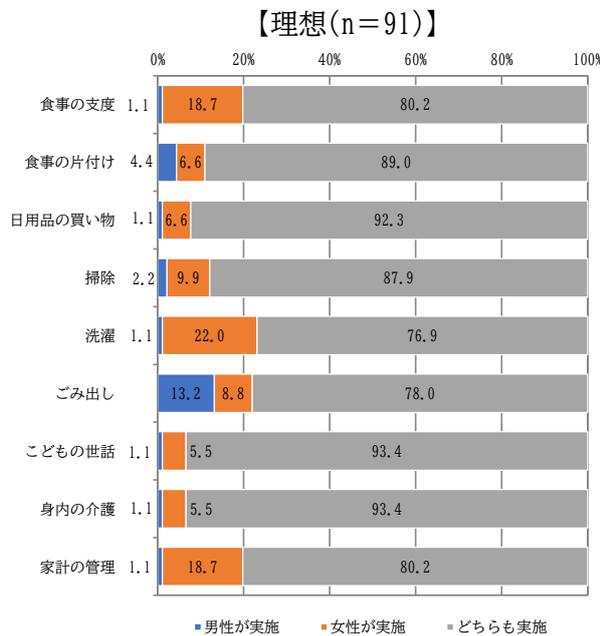
③家庭におけるパートナーとの役割分担



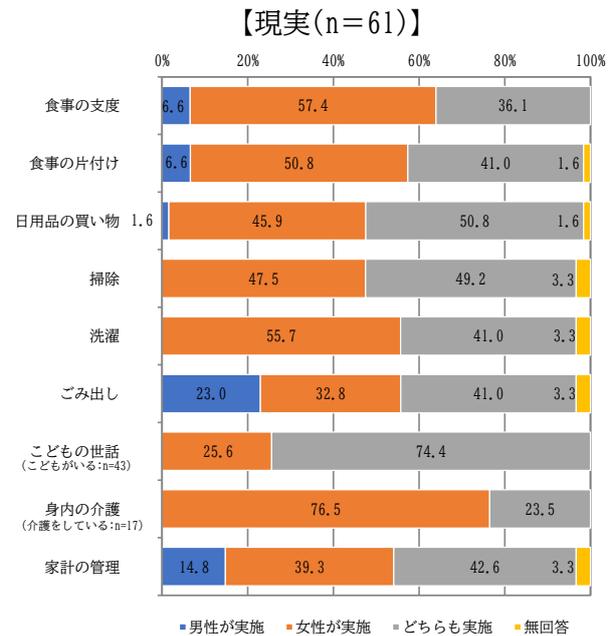
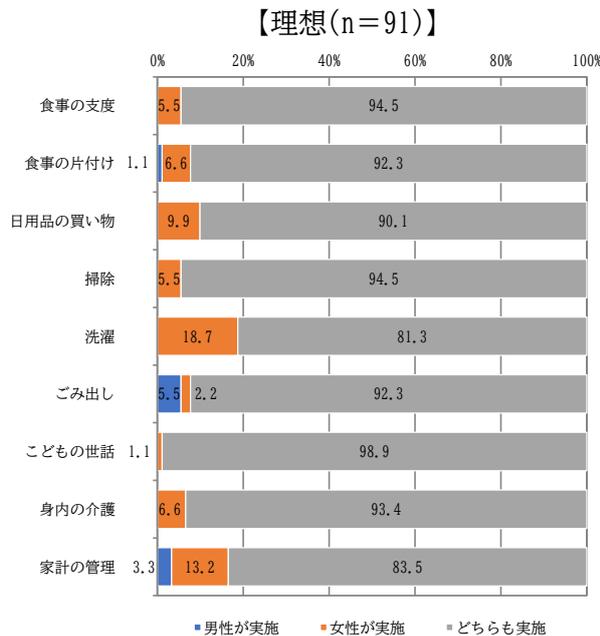
- ・ 全体をみると、理想ではいずれの項目についても「どちらも実施」が約8割以上であるが、現実ではいずれの項目についても「男性」よりも「女性」が実施している割合が高く、理想と現実乖離がある。

【男女別の回答結果】

男性



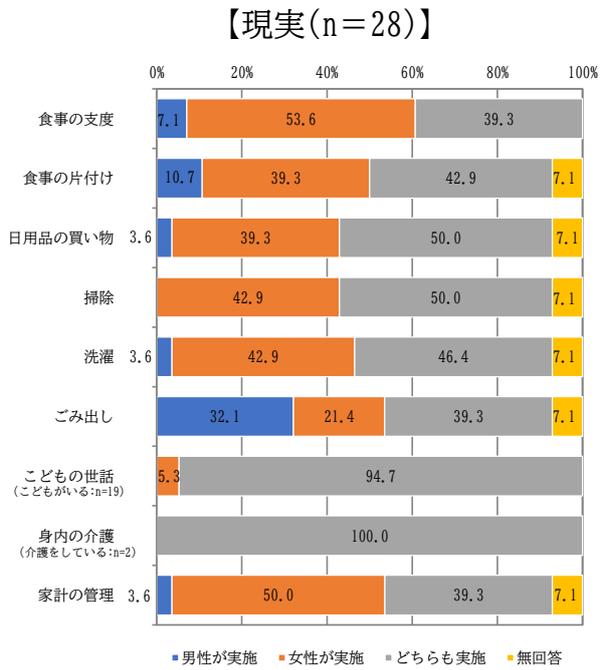
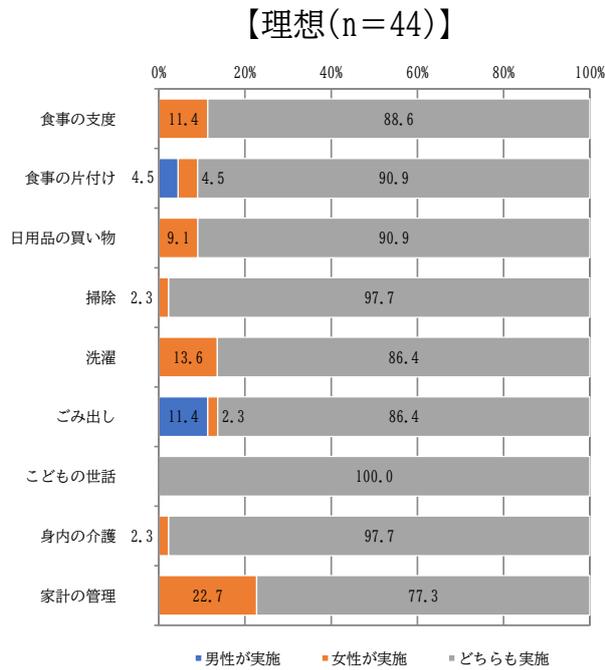
女性



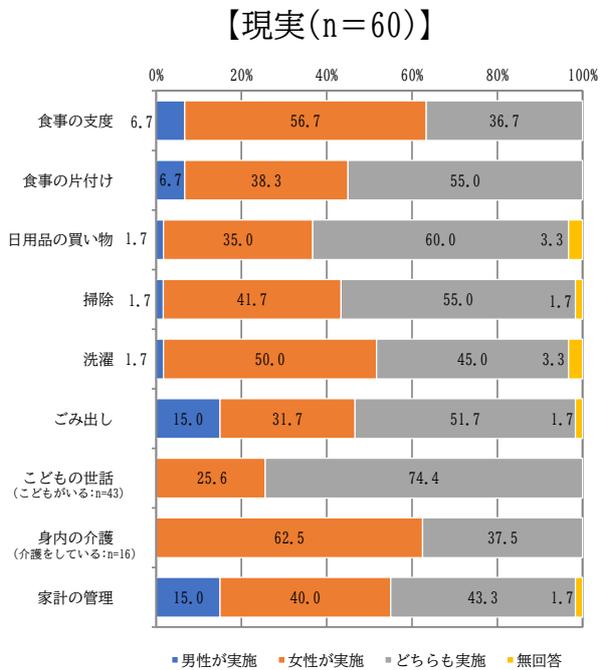
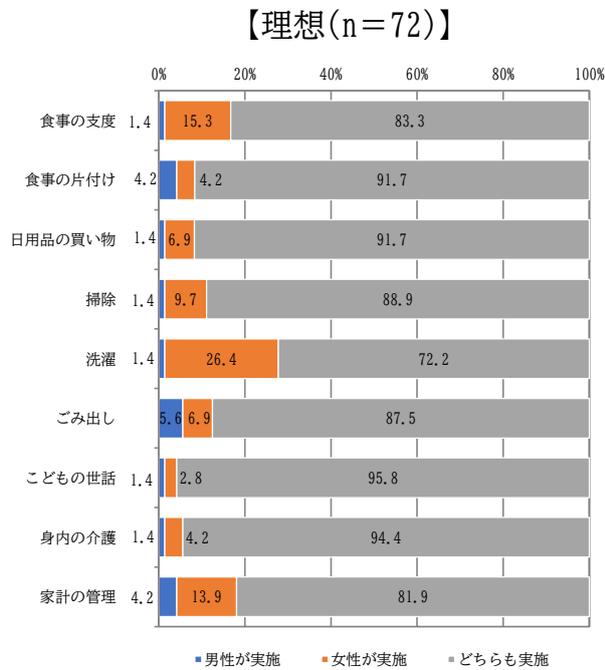
- 性別で見ると、理想では特に「食事の支度」と「ごみ出し」に男女差が見られ、女性では、「食事の支度」「ごみ出し」とともに「どちらも実施」が男性よりも割合が高い。現実では「家計の管理」以外の項目の「女性が実施」の割合が男性よりも女性の回答で高く、男性と女性とでは感じ方に乖離があることが窺える。

【年齢別の回答結果】

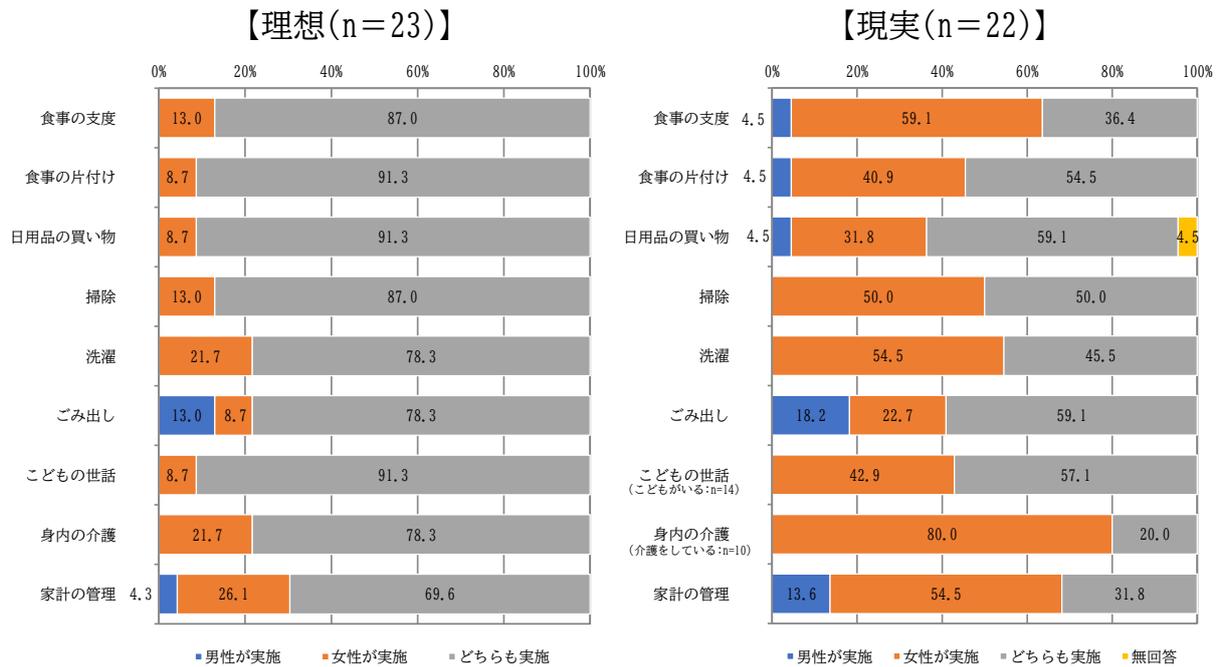
20～30代



40～50代

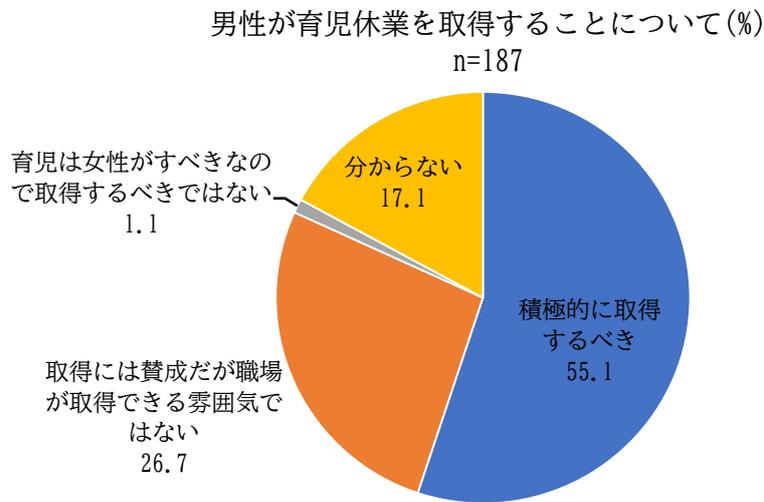


60代以上



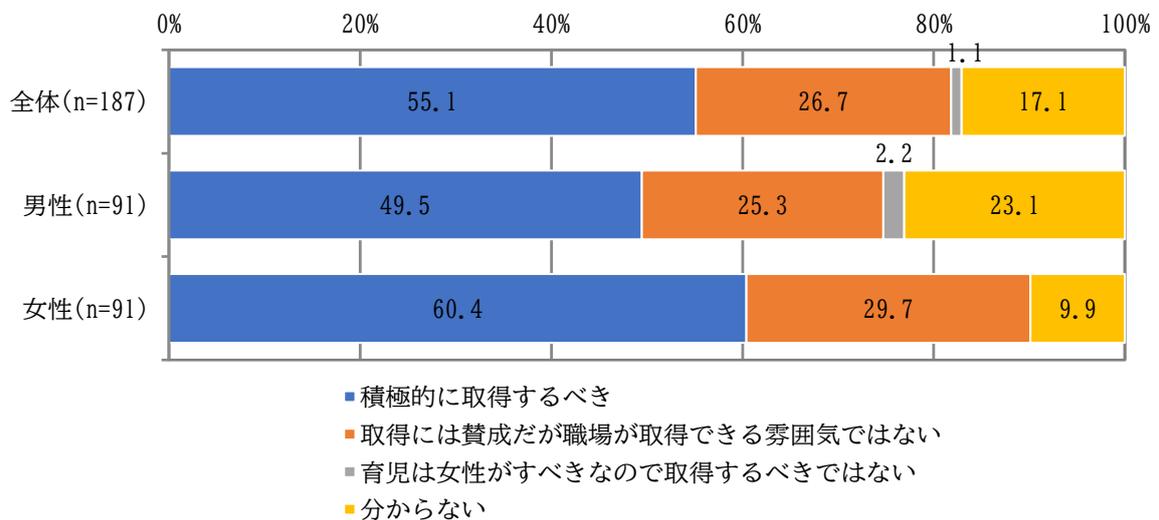
- ・ 年齢区分で見ると、理想はいずれの年齢区分・いずれの項目においても「どちらも実施」が約7割以上であるが、現実には20～30代の「ごみ出し」を除く項目について「男性」よりも「女性」が実施している割合が高く、理想と現実乖離がある。
- ・ 10代は回答者の多くが学生であり、理想と現実の回答数に大きな差があるため、年齢区分の比較からは除いている。

④男性が育児休業を取得することに対する考え



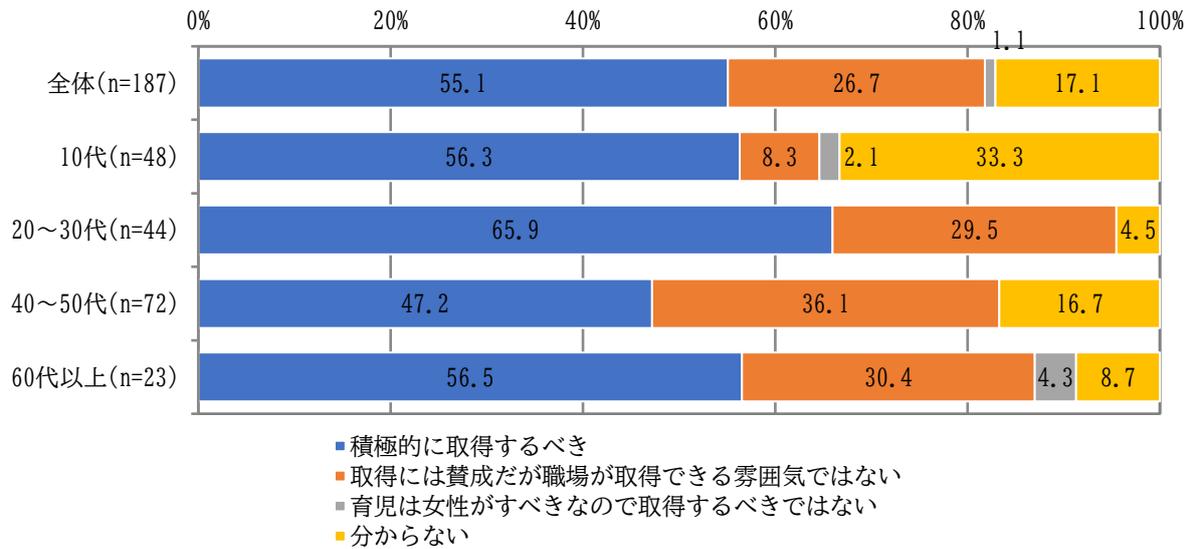
- ・ 全体で見ると、「積極的に取得すべき」(55.1%)が最も多く、次いで「取得には賛成だが職場が取得できる雰囲気ではない」(26.7%)が多い。

【男女別の回答結果】



- ・ 性別で見ると、男性よりも女性のほうが「積極的に取得すべき」の割合が高く、女性のほうが男性の積極的な育休取得を望んでいることが窺える。

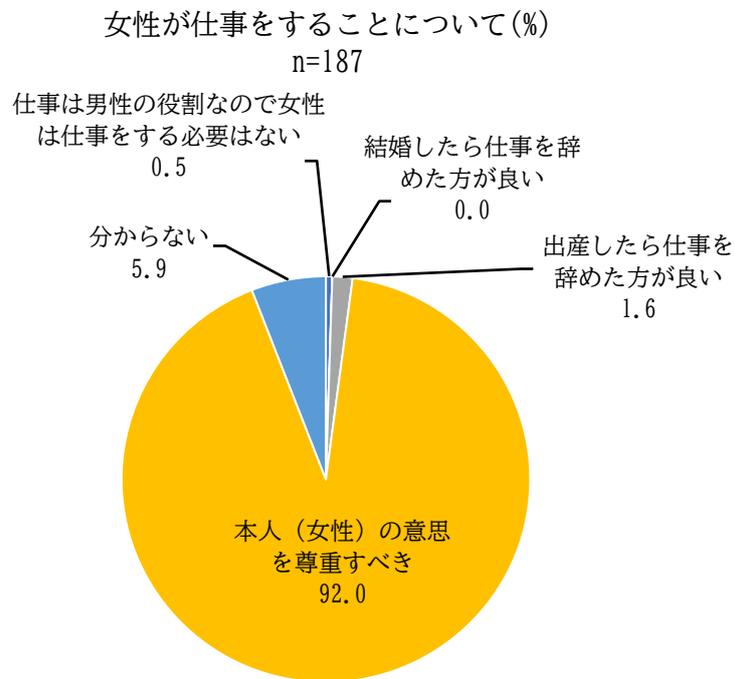
【年齢別の回答結果】



- ・ 年齢区分で見ると、特に 20~30 代といった出産する人が多い年齢区分で「積極的に取得すべき」の割合が高い。
- ・ 10 代は回答者の多くが学生であることから「わからない」の割合が高くなっていると考えられる。

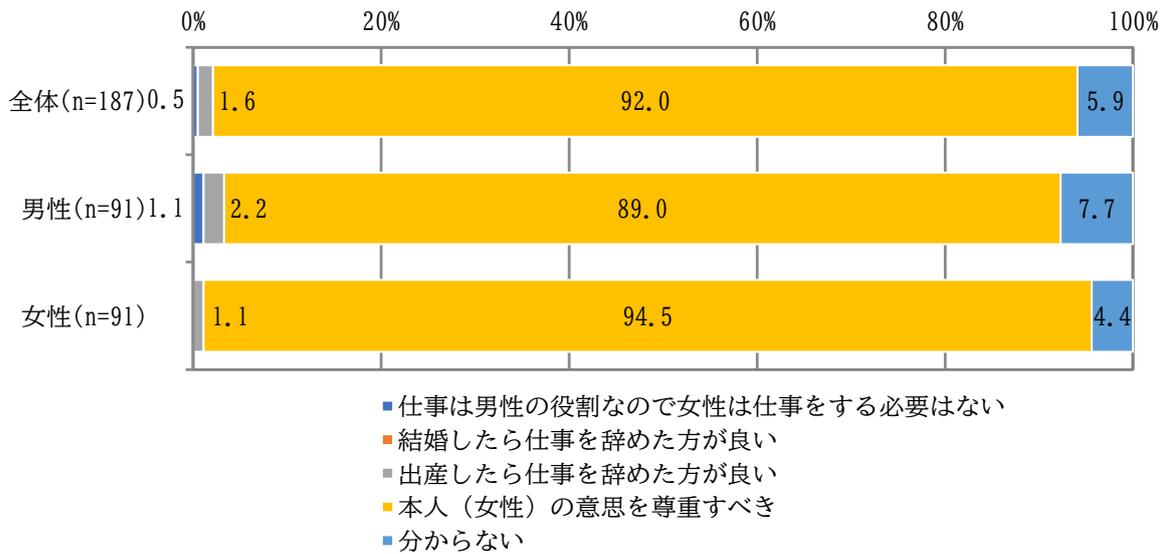
(3) 女性の仕事について

①女性が仕事をするに対する考え



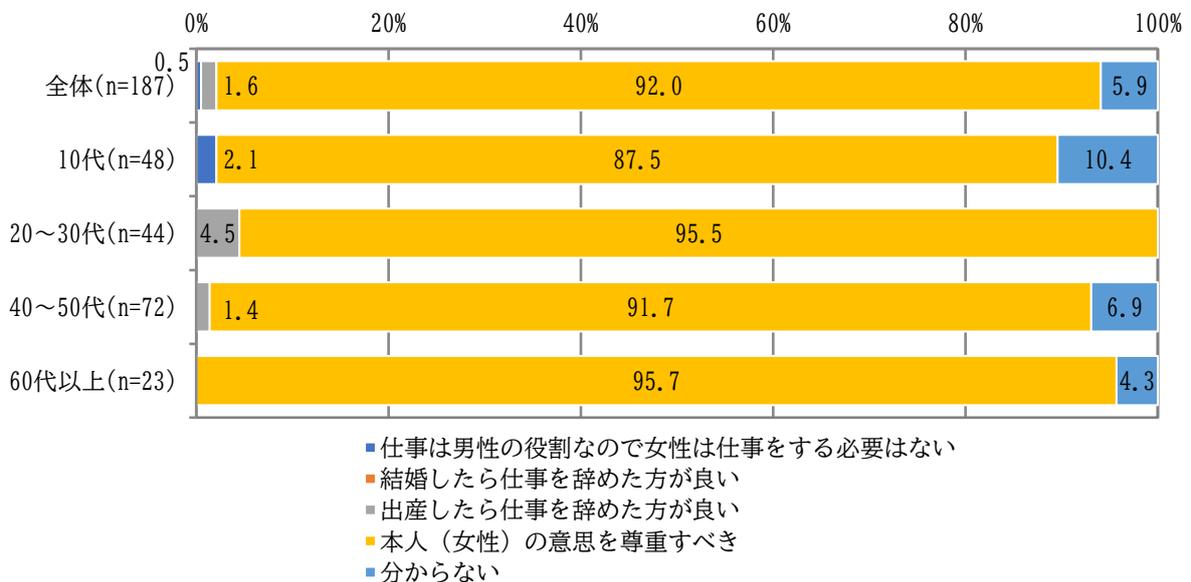
- ・ 全体で見ると、「本人(女性)の意思を尊重すべき」(92.0%)が最も多いが、「出産したら仕事を辞めた方が良い」「仕事は男性の役割なので女性は仕事をする必要はない」を合わせた2.1%は、女性は仕事をする必要がないと考えている。

【男女別の回答結果】



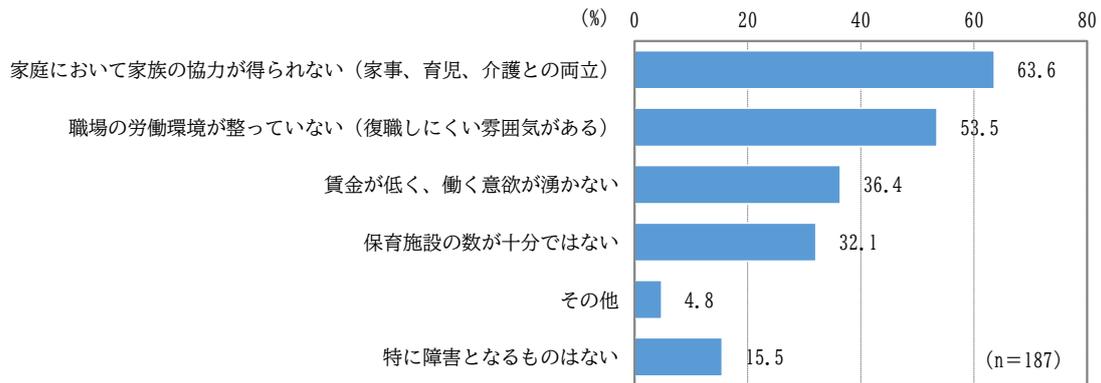
- ・ 性別で見ると、男女で大きな差は見られず、共通して「本人(女性)の意思を尊重すべき」の割合が高い。

【年齢別の回答結果】



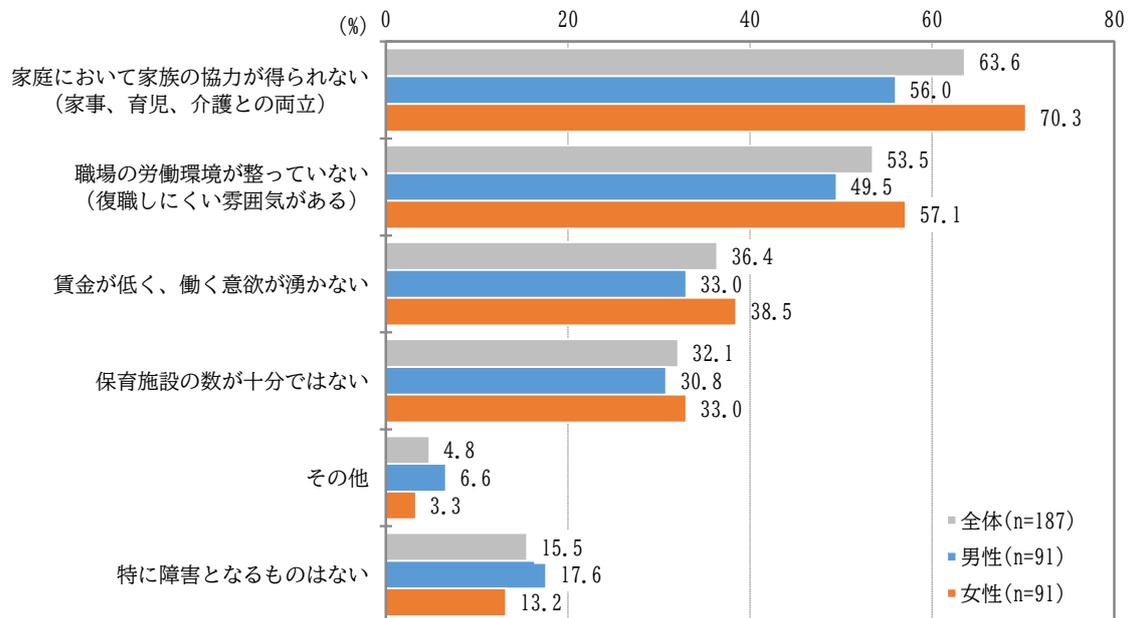
- ・ 年齢区分で見ると、年齢区分で大きな差は見られず、共通して「本人(女性)の意思を尊重すべき」の割合が高い。

②女性が仕事を続けるうえで障害となっているものは何だと思いませんか



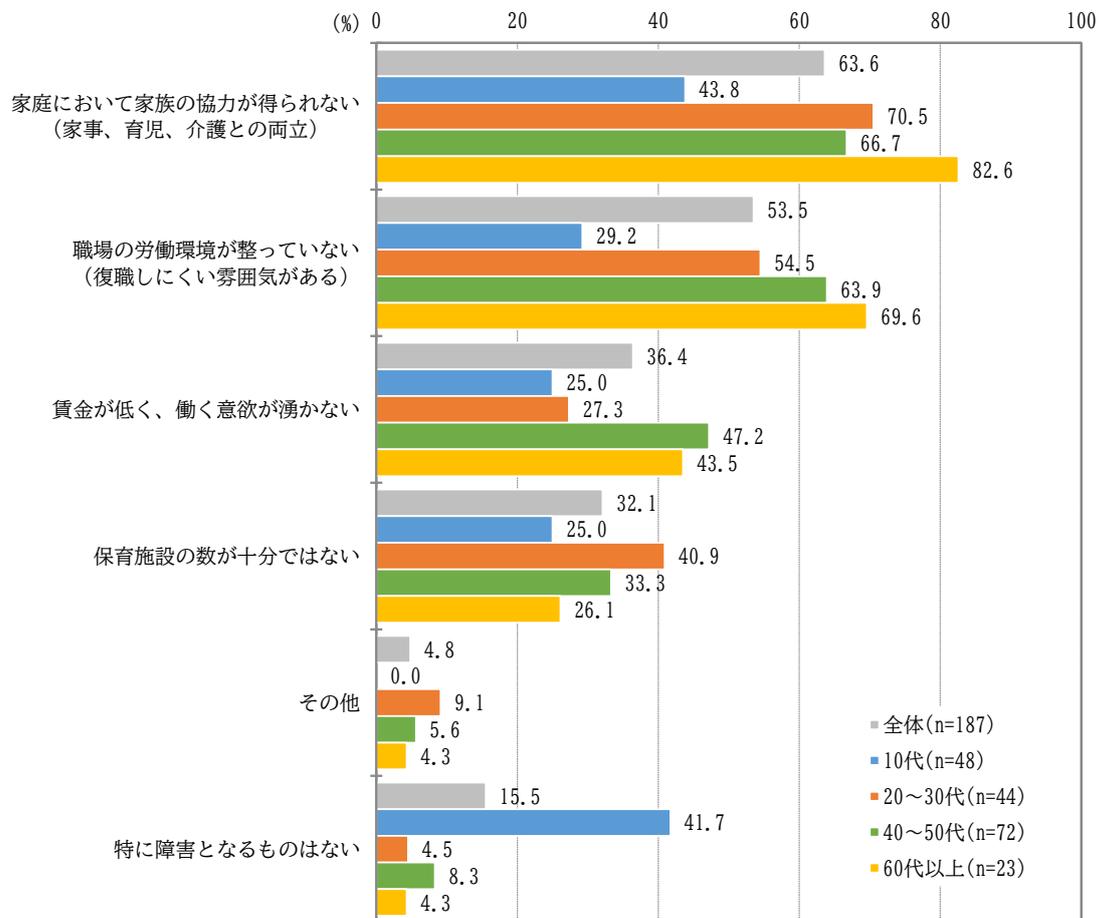
- ・ 全体で見ると、「家庭において家族の協力が得られない (家事、育児、介護との両立)」(63.6%)が最も多く、次いで「職場の労働環境が整っていない (復職しにくい雰囲気がある)」(53.5%)が多い。「特に障害となるものはない」は 15.5%に留まっている。
- ・ 回答者の 8 割以上は、女性が仕事を続けるうえでは何らかの障害があると認識していることが窺える。

【男女別の回答結果】



- ・ 性別で見ると、特に「家庭において家族の協力が得られない (家事、育児、介護との両立)」の割合が男性よりも女性で高く、男女間で認識に乖離があることが窺える。

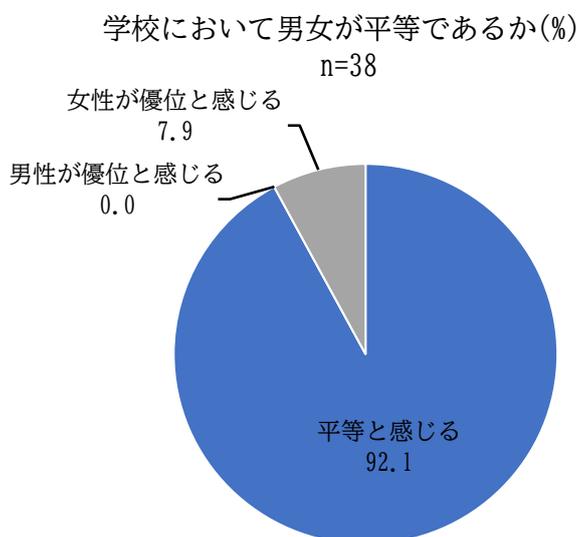
【年齢別の回答結果】



- ・ 年齢区分で見ると、20代以上では共通して「家庭において家族の協力が得られない (家事、育児、介護との両立)」の割合が最も高い。また「職場の労働環境が整っていない (復職しにくい雰囲気がある)」は20代以上で年齢が上がるにつれて割合が高くなっている。
- ・ 20～30代といった出産・子育てをする人が多い年齢区分では「保育施設の数十分ではない」の割合が他の年齢区分よりも高く、40代以上では「賃金が低く、働く意欲が湧かない」が他の年齢区分よりも高い。
- ・ 10代は回答者の多くが学生であり、社会人経験がないため「特に支障となるものはない」の割合が高くなっていると考えられる。

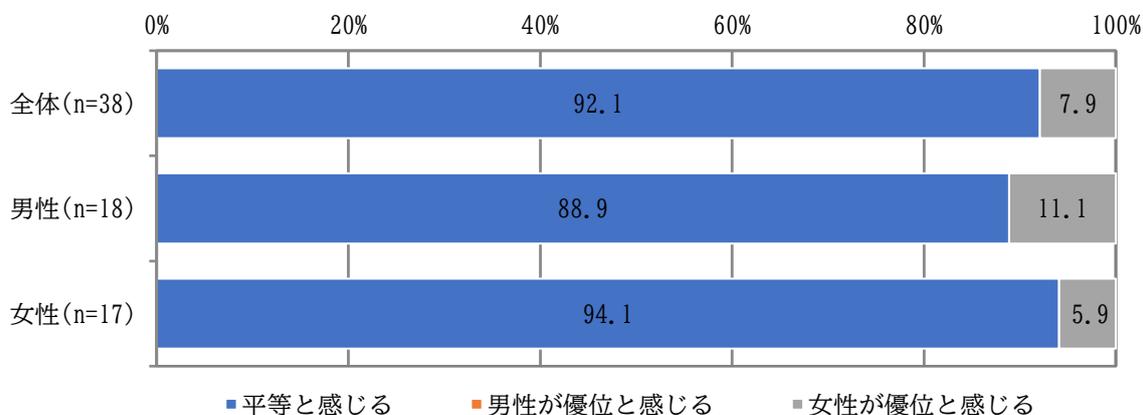
(4) 学校における男女共同について（回答は学生のみ）

①学校において男女平等であると感じている割合



- ・ 全体で見ると、「平等を感じる」(92.1%)が最も多い。
- ・ いずれかが優位と感じると回答した回答者において、学校において男女差があることを尋ねたところ、「女性の生徒会長が少ない(3件)」「荷物の運搬など力仕事は男性が行うことが多い(2件)」となった。
- ・ 内閣府男女共同参画局「男女共同参画社会に関する世論調査(令和5年11月)」では、学校教育の場における男女の地位の平等感について「平等」が68.1%、「男性の方が優遇されている」が24.5%、「女性の方が優遇されている」が5.3%となっており、根室市においては国よりも「平等」を感じる方が多いことが窺える。

【男女別の回答結果】

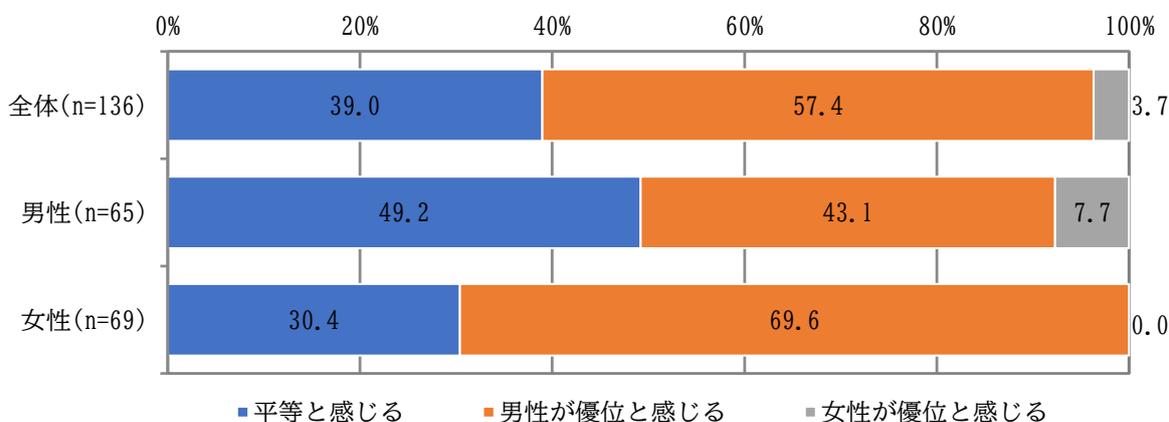


- ・ 性別で見ると、男女で大きな差は見られず、共通して「平等を感じる」の割合が高い。

(5) 職場における男女共同について（回答は学生以外のみ）

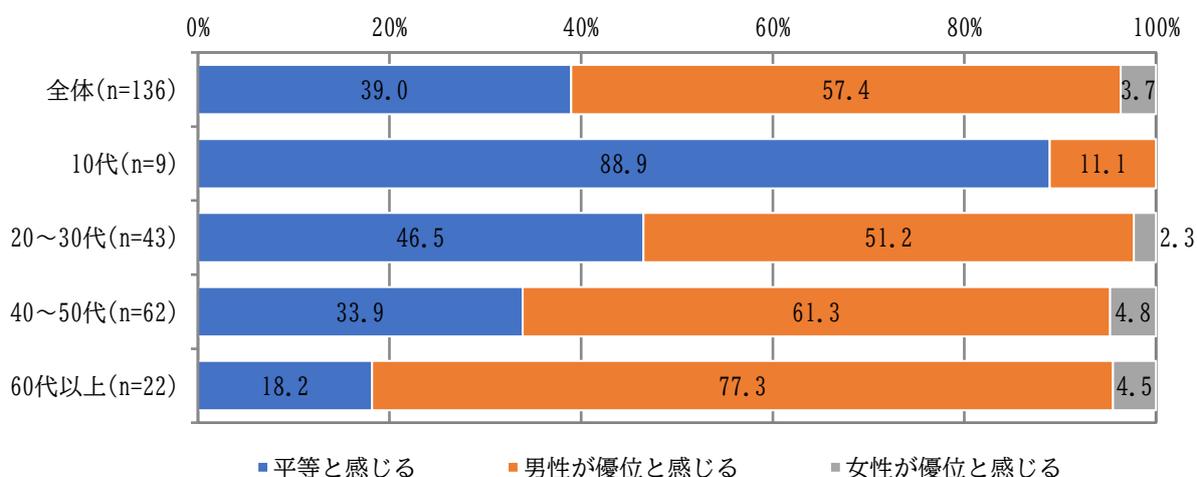
①職場において男女平等であると感じている割合

【男女別の回答結果】



- ・ 全体で見ると、「男性が優位と感じる」(57.4%)が最も多く、次いで「平等と感じる」(39.0%)が多い。「女性が優位と感じる」は3.7%に留まった。
- ・ 内閣府男女共同参画局「男女共同参画社会に関する世論調査（令和5年11月）」では、職場における男女の地位の平等感については「平等」が26.4%、「男性の方が優遇されている」が64.1%、「女性の方が優遇されている」が7.7%となっており、根室市においては国よりも「平等」に感じる方が多いことが窺える。
- ・ 性別で見ると、特に「男性が優位と感じる」の割合が男女間で大きな差があり、男性以上に女性が男性優位と感じている。

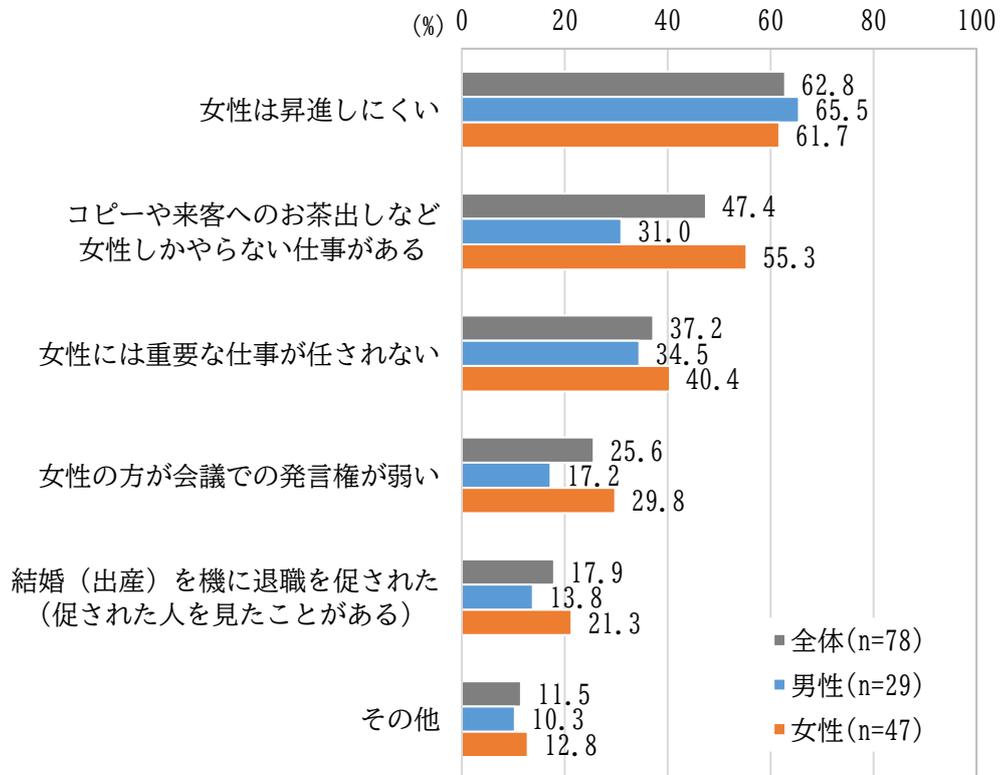
【年齢別の回答結果】



- ・ 年齢区分で見ると、20代以上では年齢が上がるほど「平等を感じる」が少なくなり、「男性が優位と感じる」が多くなる傾向がみられる。

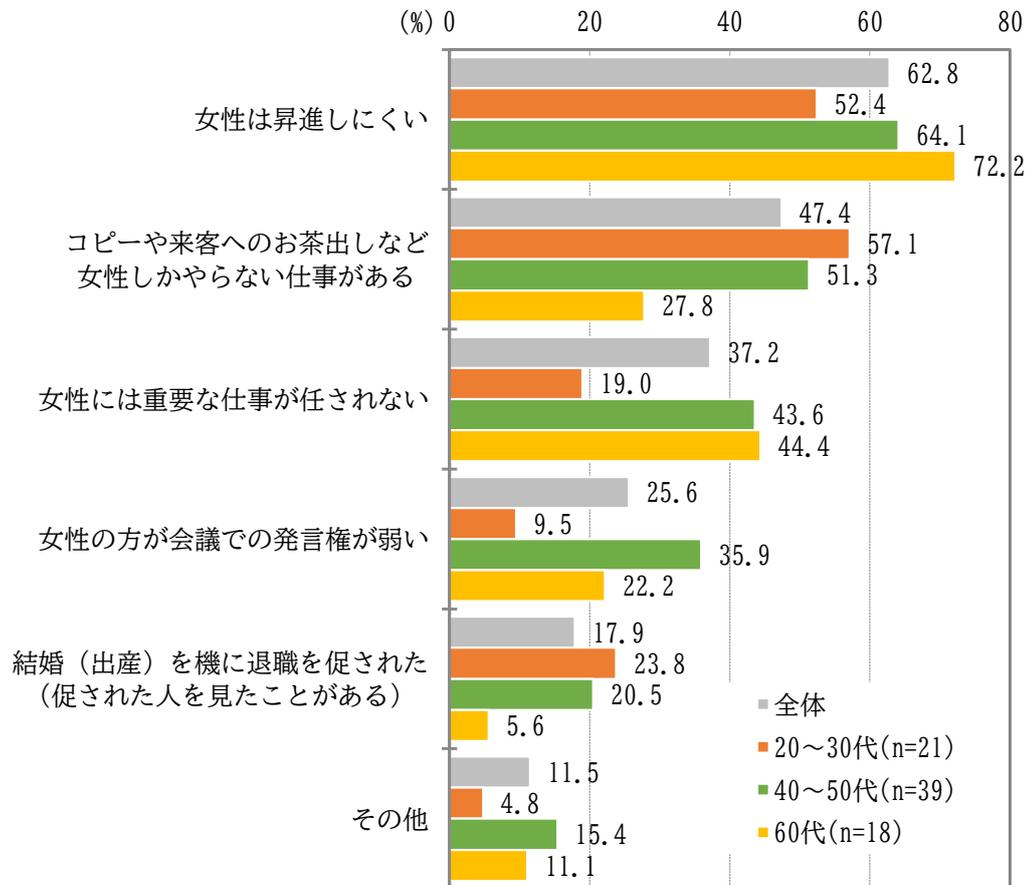
②職場における男女差

【男女別の回答結果】



- ・ 全体で見ると、「女性は昇進しにくい」(62.8%)が最も多く、次いで「コピーや来客へのお茶出しなど女性しかやらない仕事がある」(47.4%)、「女性には重要な仕事が任せられない」(37.2%)が多い。
- ・ 性別で見ると、特に「コピーや来客へのお茶出しなど女性しかやらない仕事がある」の割合が男女間で大きな差がある。

【年齢別の回答結果】

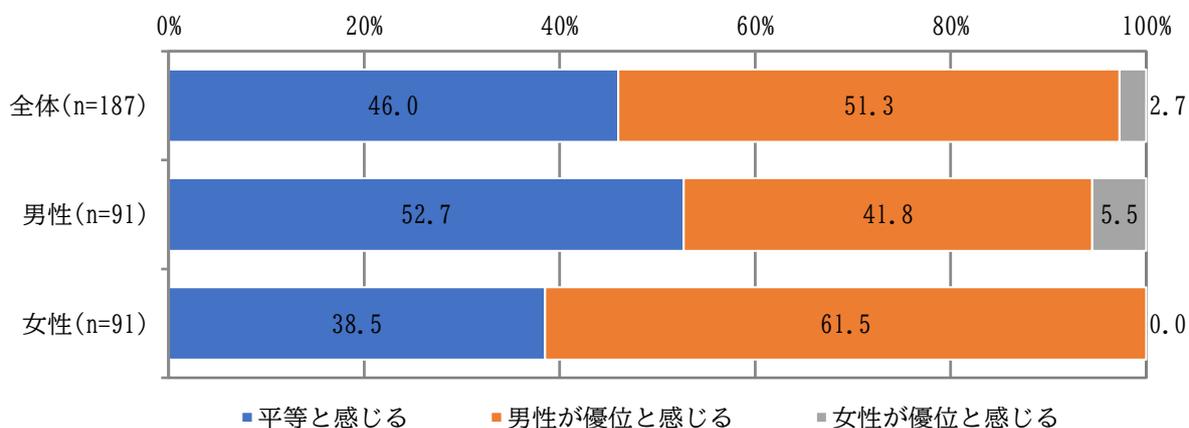


- ・ 年齢区分で見ると、特に 20～30 代では「コピーや来客へのお茶出しなど女性しかやらない仕事がある」の割合が全体よりも高い一方で、「女性には重要な仕事が任されない」「女性の方が会議での発言権が弱い」の割合が全体や 40 代以上よりも低い。
- ・ これより 20～30 代と 40 代以上では、職場における男女差の感じ方が異なることが窺える。

(6) 地域社会における男女共同について

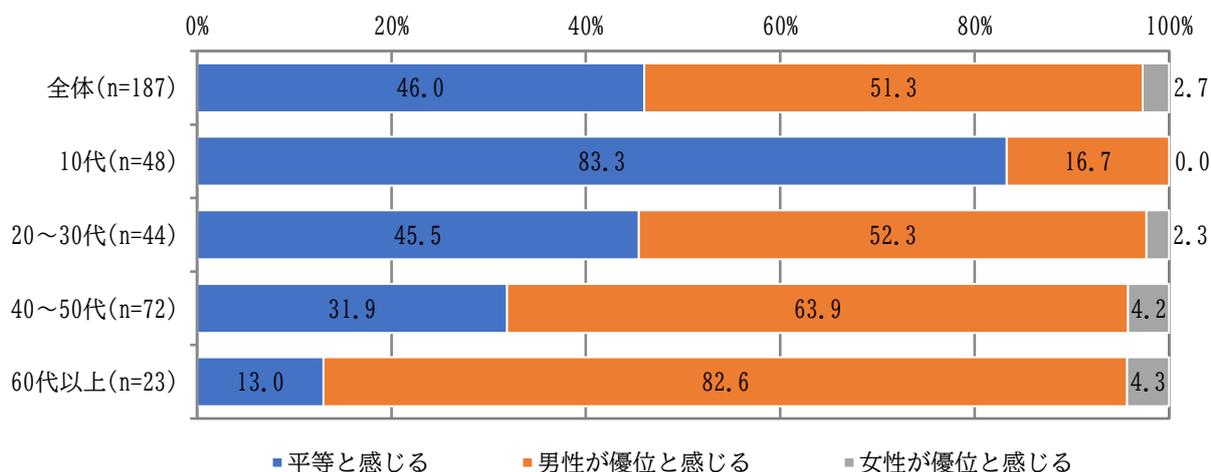
- ① 町内会活動やサークル活動など家庭・職場以外の環境において男女平等であると感じている割合

【男女別の回答結果】



- ・ 全体で見ると、「男性が優位と感じる」(51.3%)が最も多く、次いで「平等と感じる」(46.0%)が多い。
- ・ 性別で見ると、特に「男性が優位と感じる」の割合が男女間で大きな差があり、男性以上に女性が男性優位と感じている。

【年齢別の回答結果】



- ・ 年齢区分で見ると、10代では「平等を感じる」が全体や他の年齢区分に比べ多いが、回答者の多くが学生であり地域社会との関わりが限定的であることが影響している可能性がある。また、20代以上では年齢が上がるほど「平等を感じる」が少なくなり、「男性が優位と感じる」が多くなる傾向がみられる。

第2章 家庭や職場におけるハラスメントやDV被害の実態について

第2章では、家庭や職場におけるハラスメントやDV被害の実態について把握する。

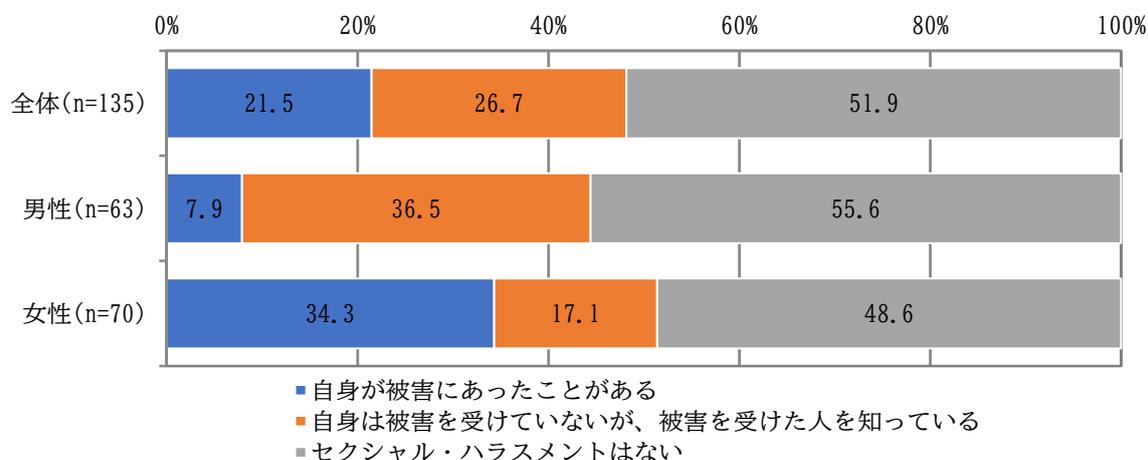
【結果の要約】

- ・ 男性に比べ女性のほうが性差別的な発言を受けたことがある割合が高く、ハラスメント被害も女性の方が被害に合っている割合が高いところを見ると、男性は女性に対し性差別を行っている自覚が低いことが窺える。

(1) ハラスメント被害について

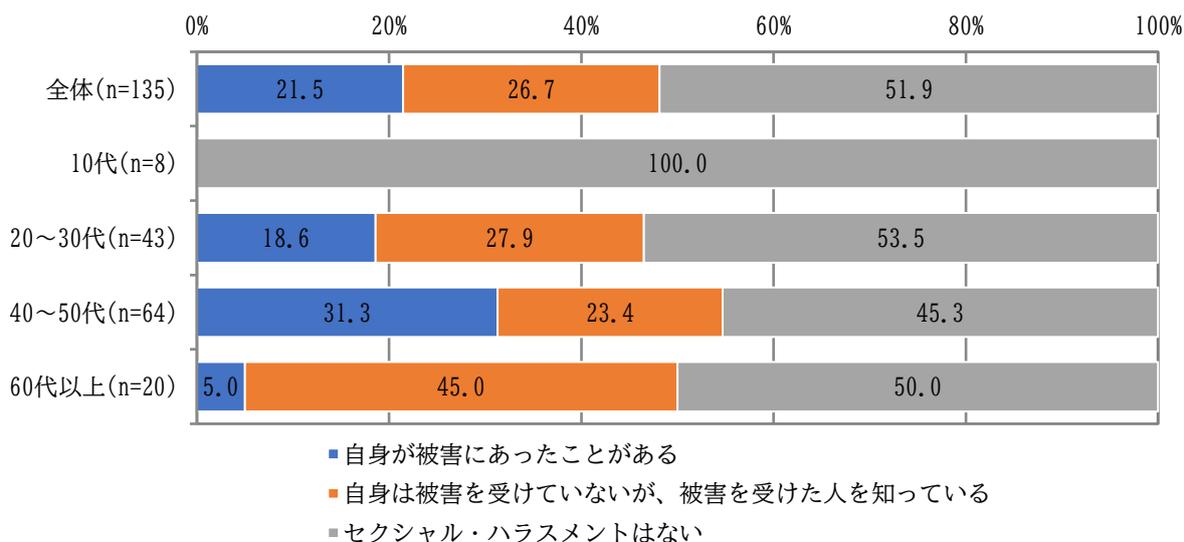
①職場でのセクシャル・ハラスメント被害の実態

【男女別の回答結果】



- ・ 全体で見ると、「自身が被害にあったことがある」、「自身は被害を受けていないが、被害を受けた人を知っている」と合わせ 48.2%がセクシャル・ハラスメントを認識している。
- ・ 性別で見ると、「自身は被害を受けていないが、被害を受けた人を知っている」「自身が被害にあったことがある」の割合が男女間で大きな差があり、男性に比べ女性では回答者自身が被害にあったことがある場合が多い。

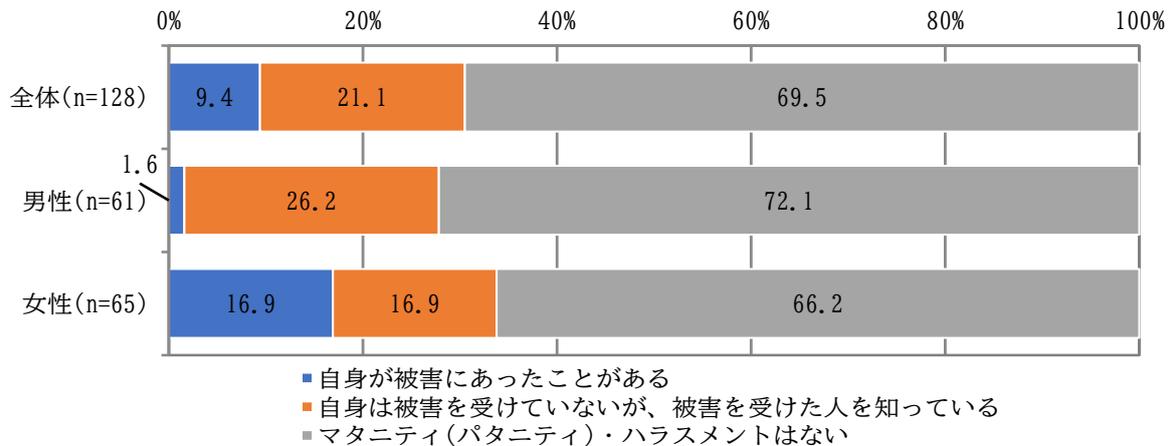
【年齢別の回答結果】



- ・ 年齢区分で見ると、40～50代では「自身が被害にあったことがある」の割合が全体やその他の年齢区分より高く、60代以上では「自身は被害を受けていないが、被害を受けた人を知っている」の割合が全体やその他の年齢区分よりも高い。

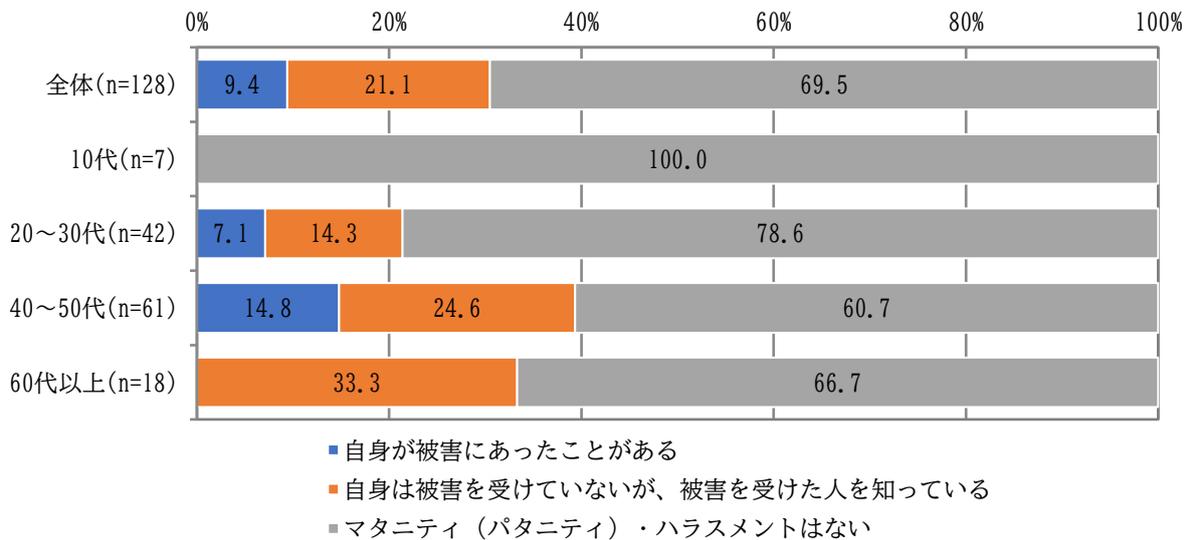
②職場でのマタニティ（パタニティ）・ハラスメント被害の実態

【男女別の回答結果】



- ・ 全体で見ると、「自身が被害にあったことがある」、「自身は被害を受けていないが、被害を受けた人を知っている」を合わせ 30.5%がマタニティ（パタニティ）・ハラスメントを認識している。
- ・ 性別で見ると、セクシャル・ハラスメント被害ほどではないものの「自身は被害を受けていないが、被害を受けた人を知っている」「自身が被害にあったことがある」の割合が男女間で差があり、男性に比べ女性では回答者自身が被害にあったことが多い。

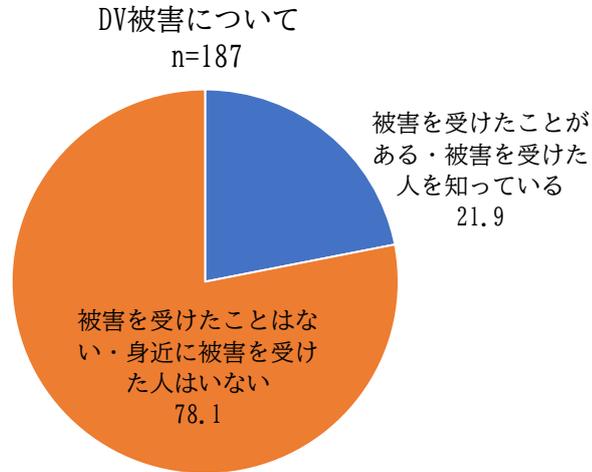
【年齢別の回答結果】



- ・ 年齢区分で見ると、60代以上では「自身は被害を受けていないが、被害を受けた人を知っている」の割合が全体やその他の年齢区分よりも高い。

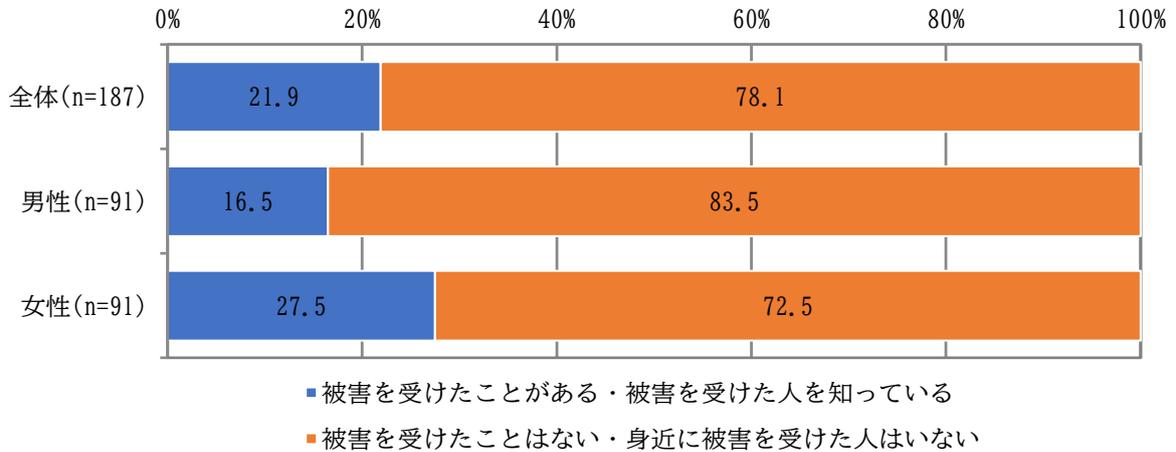
(2) DV被害について

① DV被害の実態



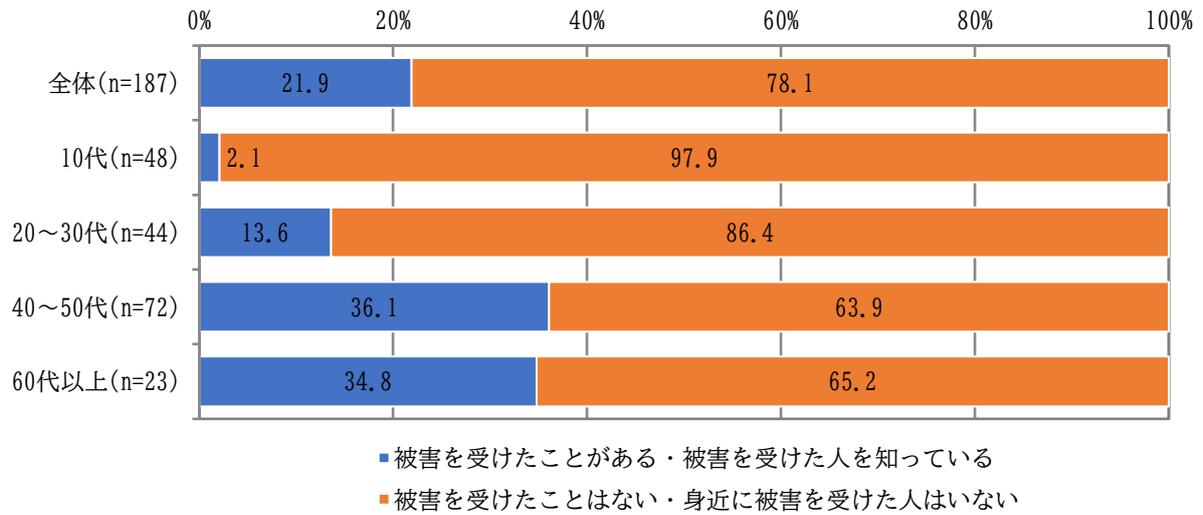
- ・ 全体で見ると、「被害を受けたことはない・身近に被害を受けた人はいない」が78.1%、「被害を受けたことがある・被害を受けた人を知っている」が21.9%となった。

【男女別の回答結果】



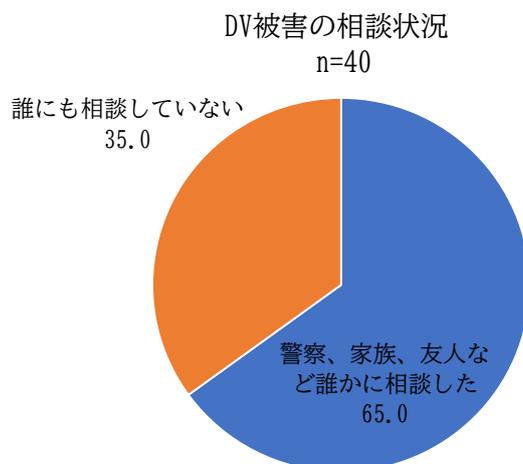
- ・ 性別で見ると、男性よりも女性のほうが「被害を受けたことがある・被害を受けた人を知っている」の割合が高い。

【年齢別の回答結果】



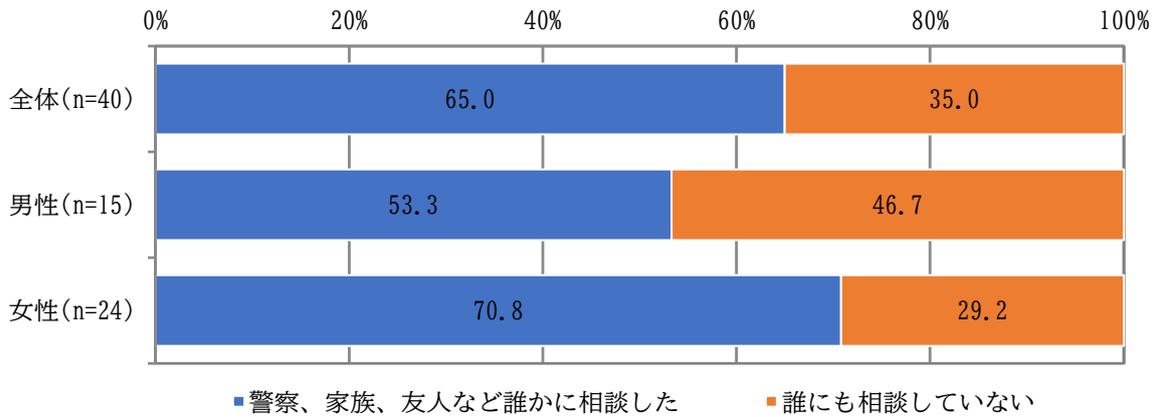
- ・ 年齢区分で見ると、10～30代においても「被害を受けたことがある・被害を受けた人を知っている」は一定程度みられるものの、40代以上になると「被害を受けたことがある・被害を受けた人を知っている」が一段と多くなる傾向がみられる。

② DV被害の相談状況



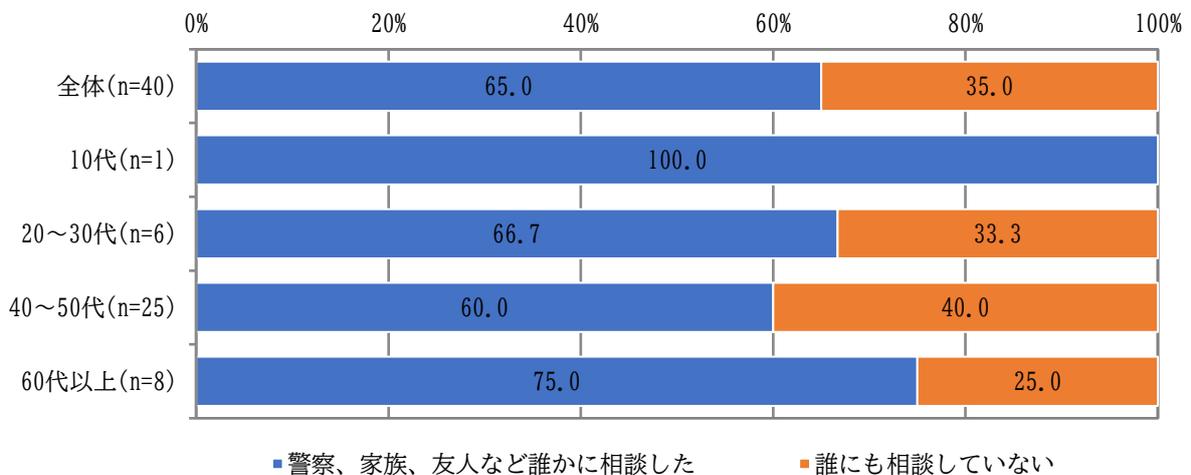
- ・ 全体で見ると、「警察、家族、友人など誰かに相談した」が 65.0%、「誰にも相談していない」が 35.0%となった。
- ・ DV被害を相談しなかった理由は、「相手に相談した事が知られることで暴力がひどくなるなど、今後の事を考え我慢するしかないと思ったから」(5件)、「相談しても無駄だと思ったから」(4件)、「恥ずかしくて誰にも知られたくなかったから」(1件)、その他(5件)となっている。

【男女別の回答結果】



- ・ 性別で見ると、女性よりも男性のほうが「誰にも相談していない」の割合が高く、男性よりも女性のほうが「警察、家族、友人など誰かに相談した」の割合が高い。

【年齢別の回答結果】



- ・ 年齢区分で見ると、60代以上では「警察、家族、友人など誰かに相談した」の割合が全体に比べ高い。

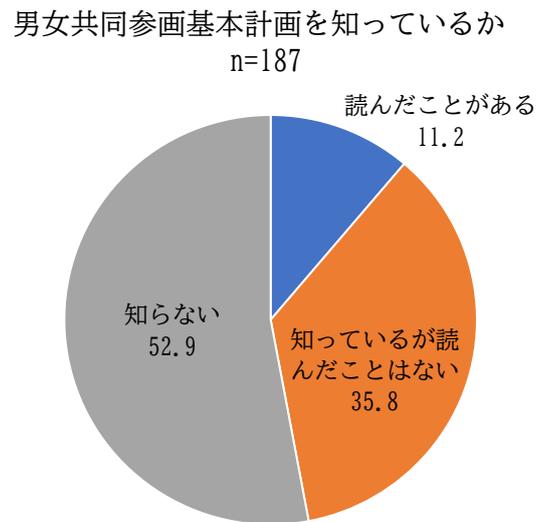
第3章 市民への男女共同参画の取組の浸透について

第3章では、根室市における男女共同参画の取組が市民に浸透しているかを把握する。

【結果の要約】

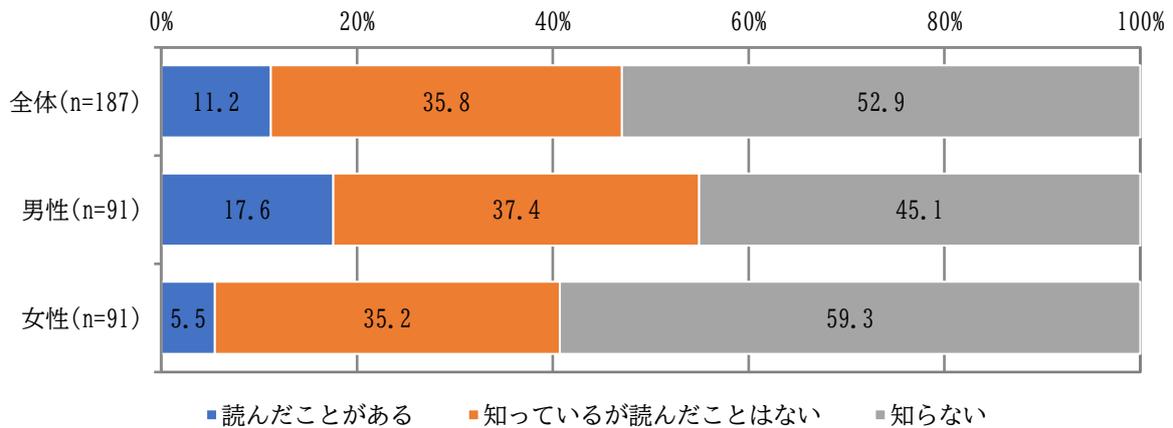
- ・ 男女共同参画基本計画について、10代はほとんどが知らない状況となっている。20代以上においても約4割が知らない状況である。
- ・ 根室市において男女共同参画社会を実現するために必要な取り組みについては、10代では学校での男女平等教育、20～30代では男性の育児休業の取得推奨、40～50代では職場でのハラスメント対策、60代以上では市役所の女性職員の管理職登用推進が多く、今後、年齢区分を考慮した対策の検討が必要と考えられる。

(1) 根室市男女共同参画基本計画を知っている市民割合



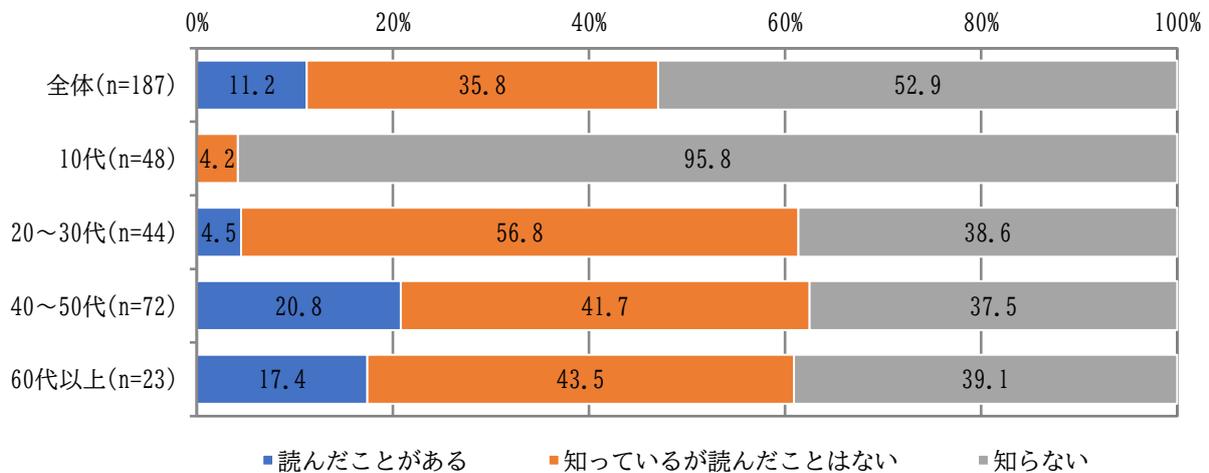
- ・ 全体で見ると、根室市男女共同参画基本計画を「知らない」(52.9%)が最も多く、次いで「知っているが読んだことはない」(35.8%)が多い。「読んだことがある」は約1割に留まっている。

【男女別の回答結果】



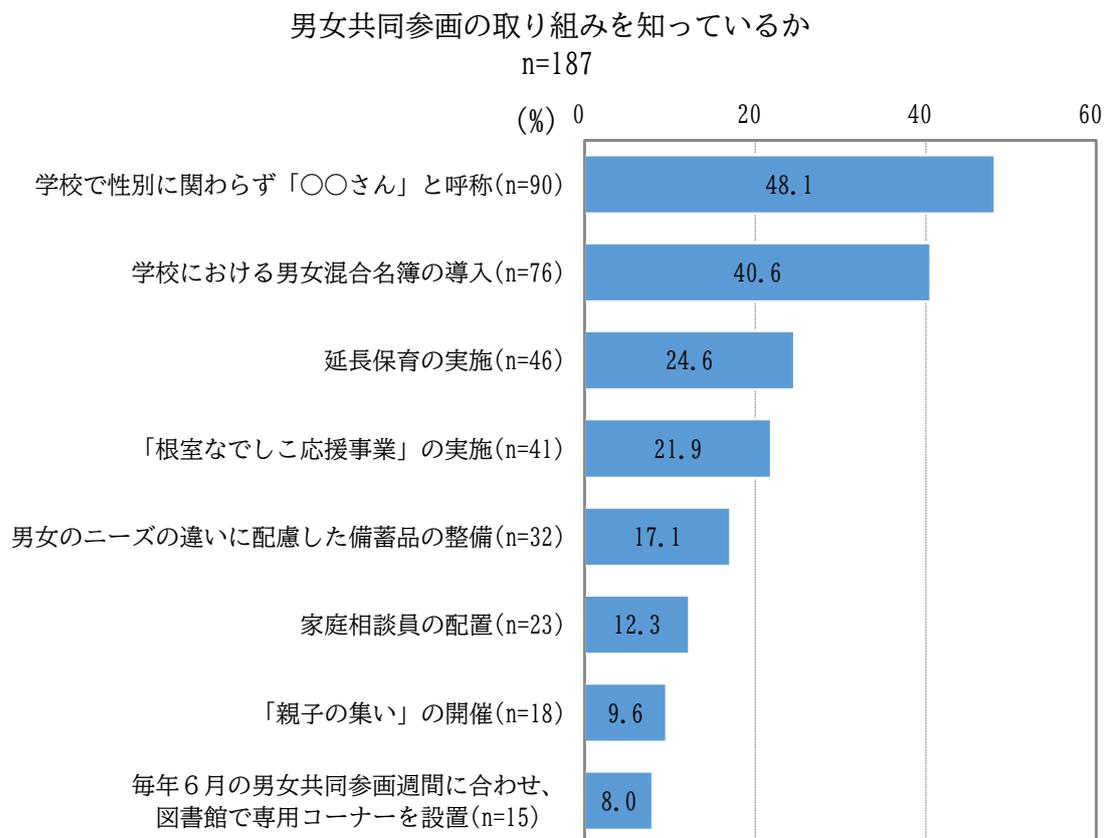
- ・ 性別でみると、女性よりも男性のほうが「読んだことがある」の割合が高く、男性よりも女性のほうが「知らない」の割合が高い。

【年齢別の回答結果】



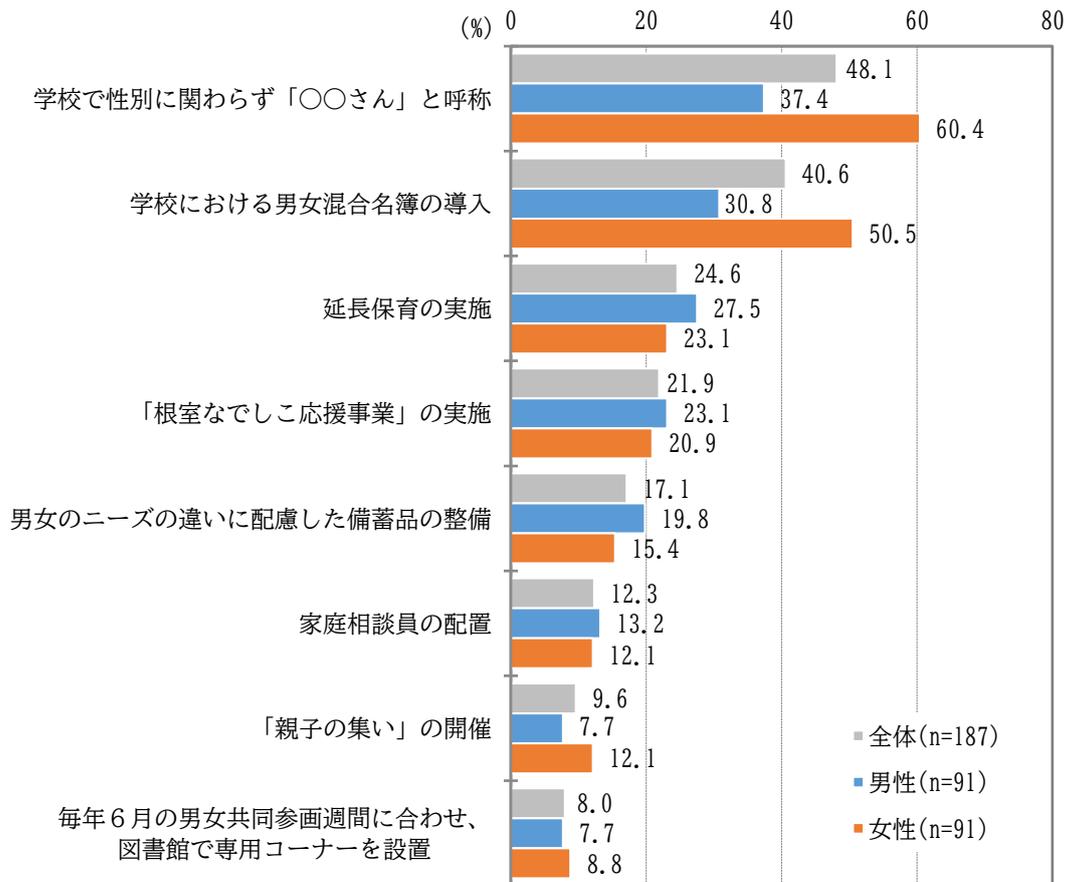
- ・ 年齢区分でみると、10代のほとんど、他の年齢区分においては約4割が「知らない」状況にある。20~30代の約6割は計画を認知はしているものの読んだことがある回答者がわずかであり、40代以上になると計画を読んだことがある回答者が約2割に増えている。

(2) 根室市の男女共同参画の取り組みを知っている市民の割合



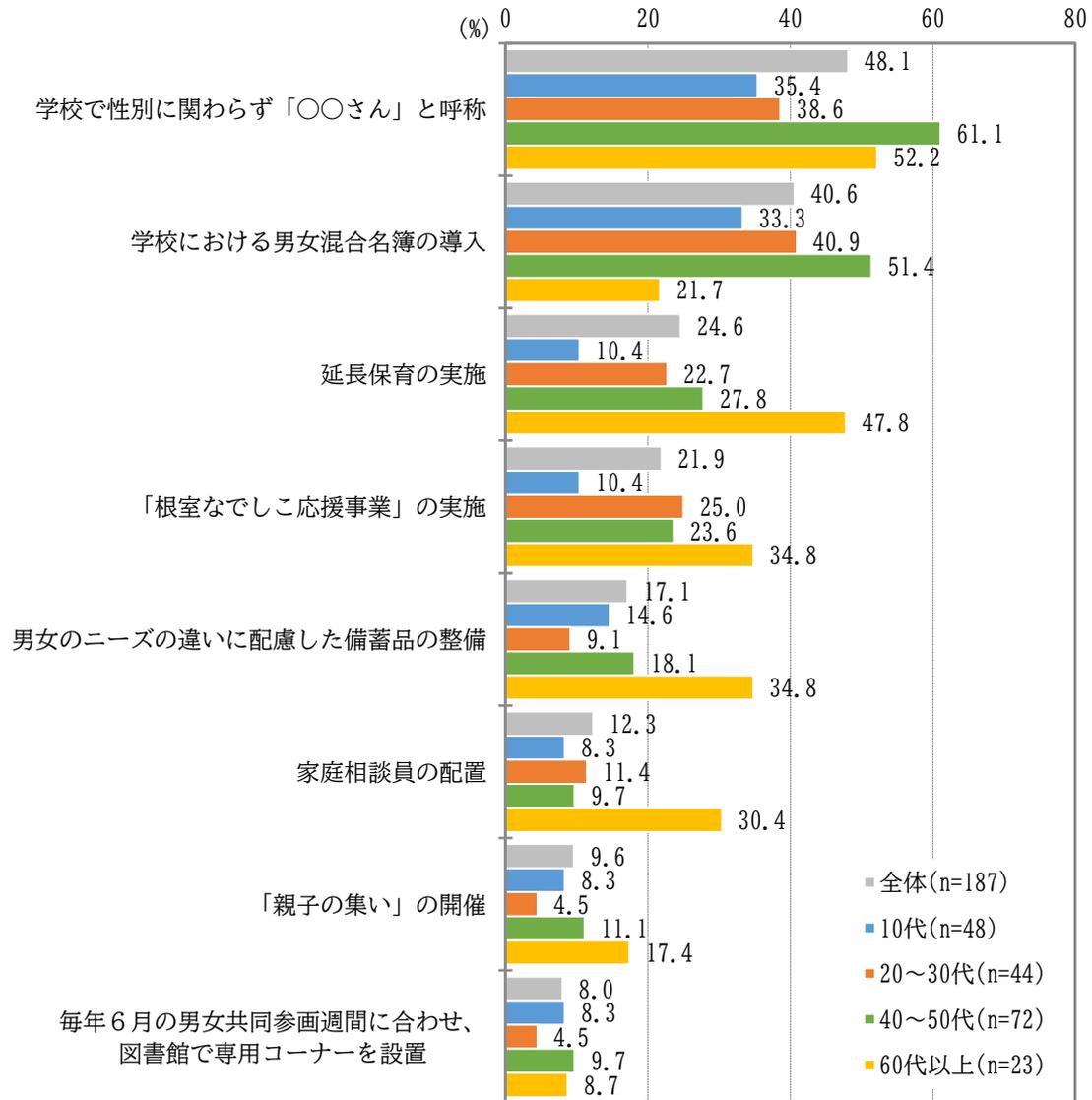
- ・ 全体で見ると、「学校で性別に関わらず「〇〇さん」と呼称」(48.1%) が最も多く、次いで「学校における男女混合名簿の導入」(40.6%)が多い。

【男女別の回答結果】



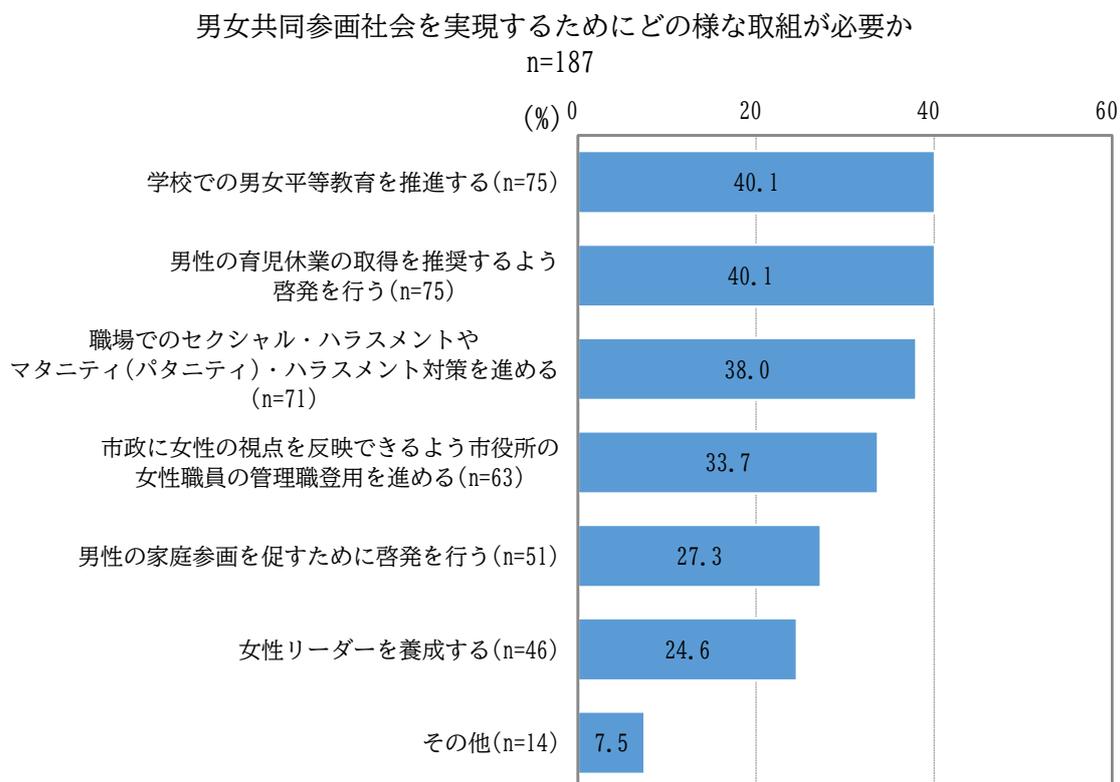
- ・ 性別で見ると、学校における取り組みについては、男性よりも女性のほうが知っている割合が高く、女性のほうが学校との関わりも深いことが窺える。

【年齢別の回答結果】



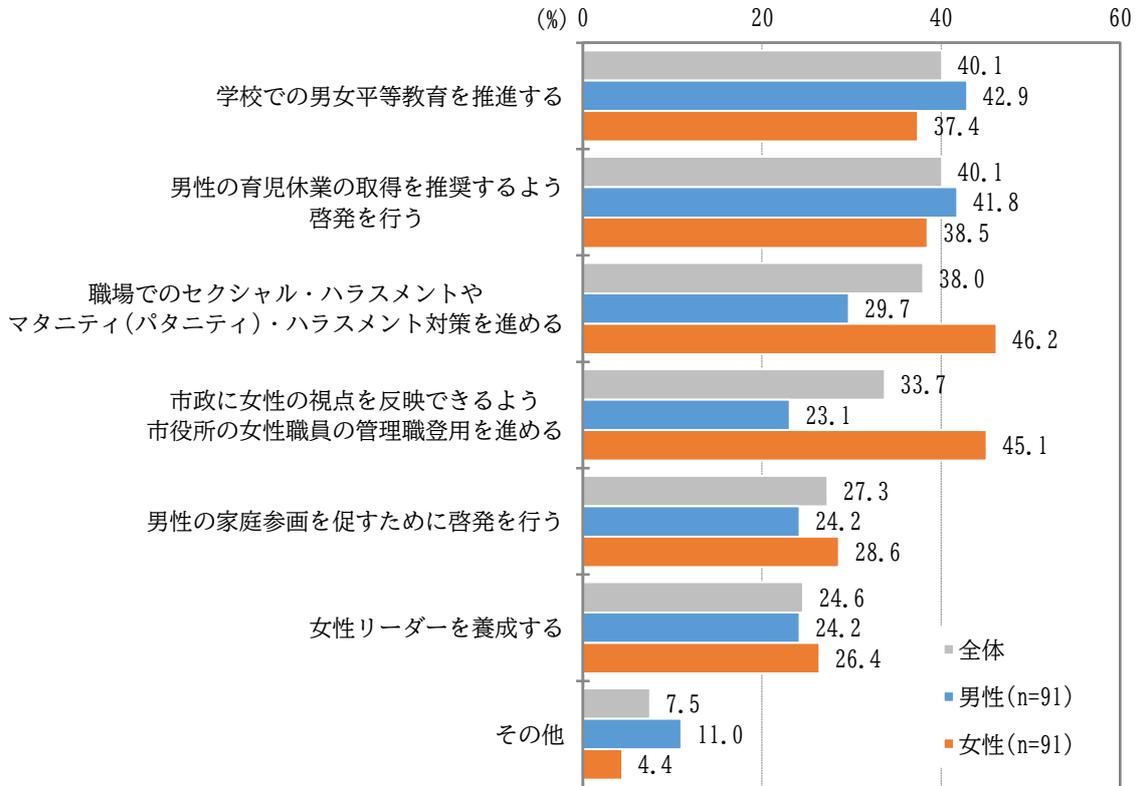
- ・ 年齢区分で見ると、40～50代では全体や他の年齢区分よりも学校における取り組みについて知っている割合が高く、この年代は学校に通っている子どもを抱えている人が多いと考えられる。
- ・ 60代以上では、学校における取り組み以外について全体や他の年齢区分よりも割合が高い。

(3) 根室市において男女共同参画社会を実現するために必要な取り組み



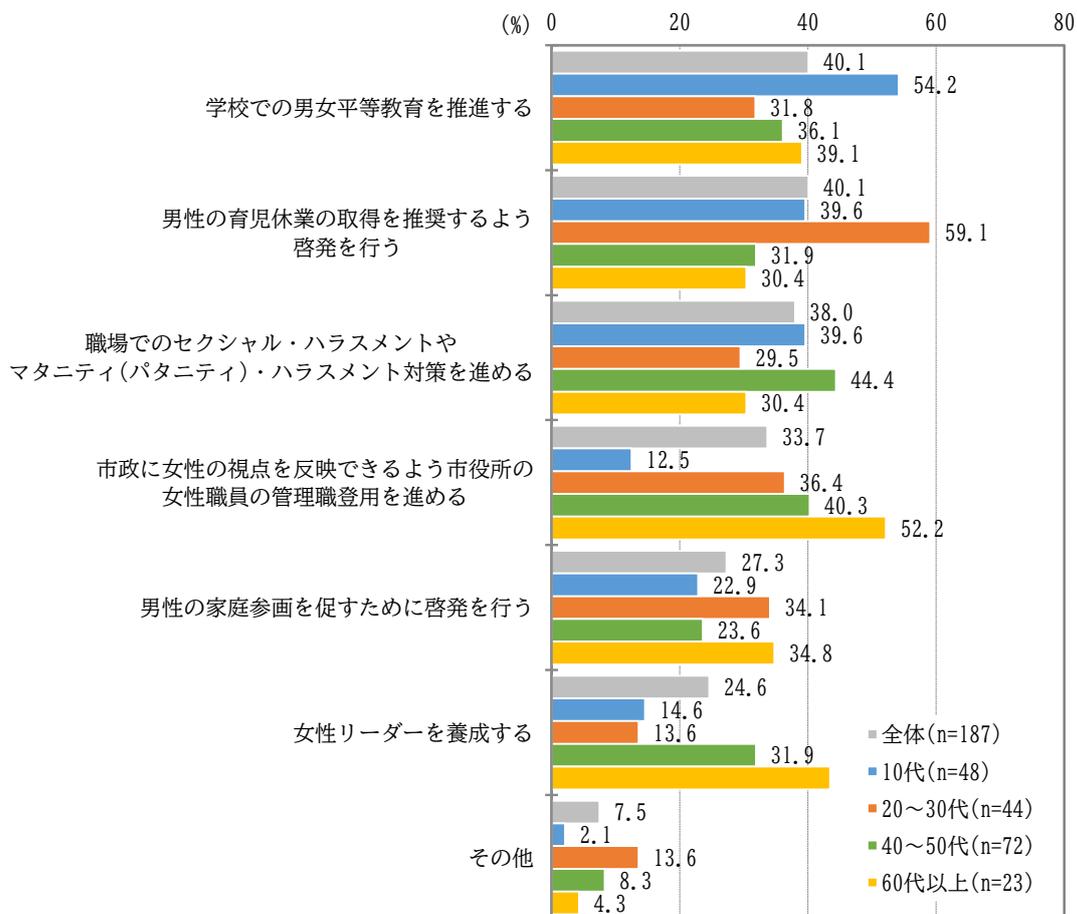
- ・ 全体で見ると、「学校での男女平等教育を推進する」(40.1%) および「男性の育児休業の取得を推奨するよう啓発を行う」(40.1%) が最も多く、次いで「職場でのセクシャル・ハラスメントやマタニティ(パタニティ)・ハラスメント対策を進める」(38.0%)が多い。

【男女別の回答結果】



- ・ 性別で見ると、女性では特に「職場でのセクシャル・ハラスメントやマタニティ(パタニティ)・ハラスメント対策を進める」「市政に女性の視点を反映できるように市役所の女性職員の管理職登用を進める」の割合が男性よりも高い。

【年齢別の回答結果】



- ・ 年齢区分で最も多い回答をみると、10代では「学校での男女平等教育を推進する」、20～30代では「男性の育児休業の取得を推奨するような啓発を行う」、40～50代では「職場でのセクシャル・ハラスメントやマタニティ(パタニティ)・ハラスメント対策を進める」、60代以上では「市政に女性の視点を反映できるよう市役所の女性職員の管理職登用を進める」と各区分で回答が異なるという特徴がみられる。

第4章 市民における「多様性」に対する認識について

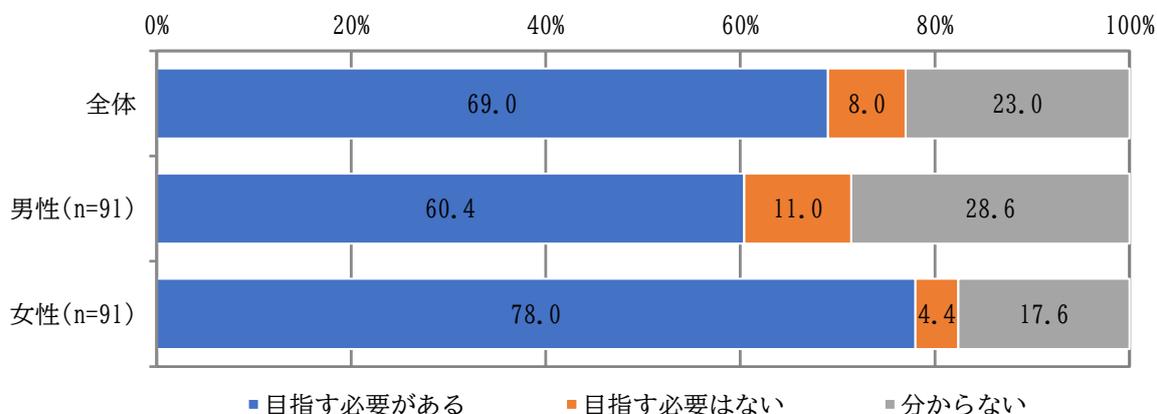
第4章では、人権尊重の観点から世界的に求められている「多様性」について、市民がどう感じているかを把握する。

【結果の要約】

- ・ 全体の約 7 割が多様性を尊重する社会の必要性を認識しているが、特に女性のほうがその必要性を感じている。
- ・ パートナーシップ制度の導入について、半数以上が必要性を感じているが、特に 20～30 代といった若い世代が最も必要性を感じている。

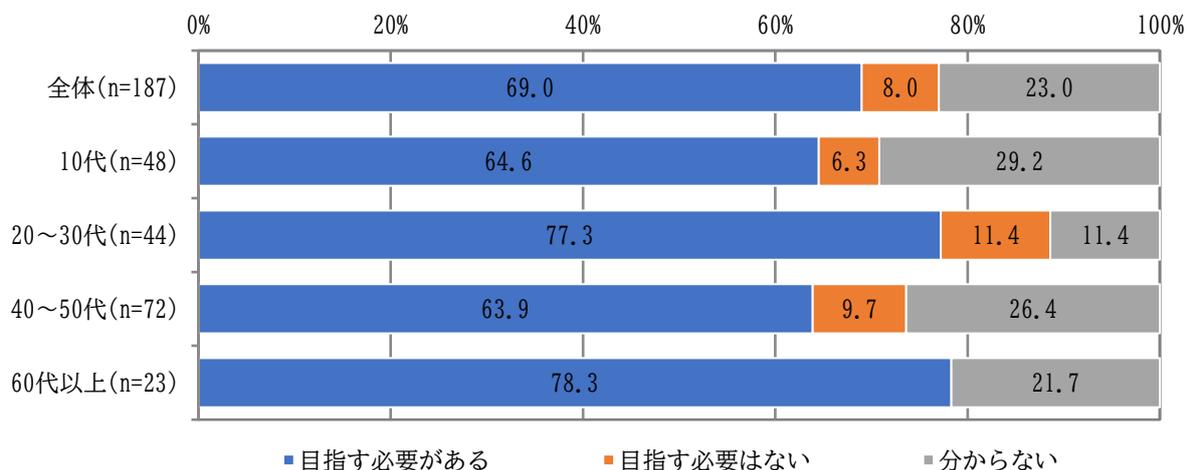
(1) 一人ひとりの多様性が尊重される社会を目指す必要性について

【男女別の回答結果】



- ・ 全体で見ると、「目指す必要がある」(69.0%)が最も多く、次いで「わからない」(23.0%)が多い。
- ・ 性別で見ると、特に「目指す必要がある」の割合が男女間で大きな差があり、男性以上に女性が多様性が尊重される社会を目指す必要性を感じている。

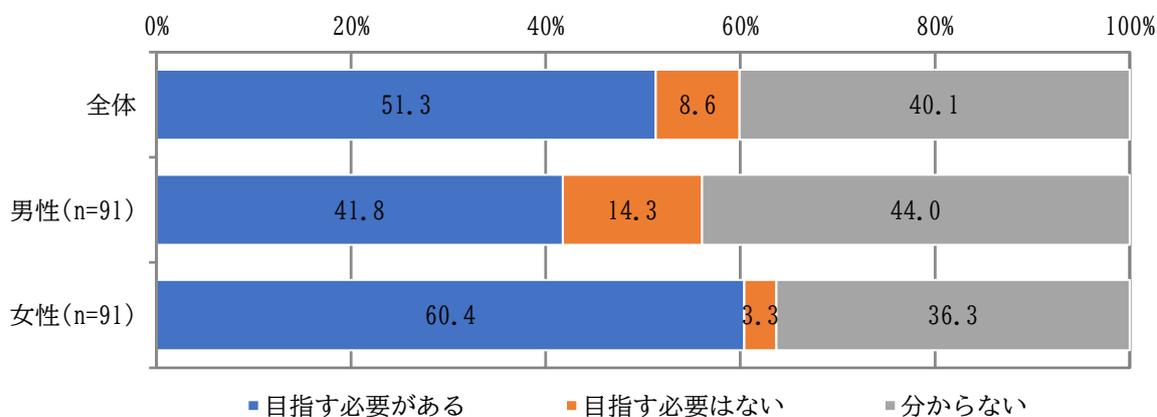
【年齢別の回答結果】



- ・ 年齢区分で見ると、特に 20~30 代や 60 代以上で「目指す必要がある」の割合が高い。

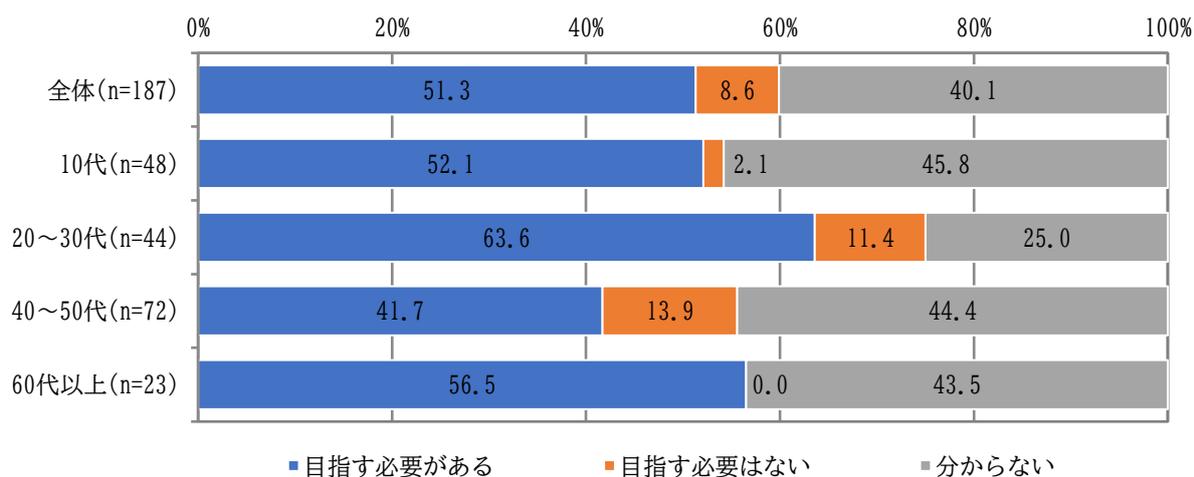
(2) パートナーシップ制度の導入を目指す必要性について

【男女別の回答結果】



- ・ 全体で見ると、「目指す必要がある」(51.3%)が最も多く、次いで「わからない」(40.1%)が多い。
- ・ 性別で見ると、特に「目指す必要がある」の割合が男女間で大きな差があり、男性以上に女性がパートナーシップ制度導入を目指す必要性を感じている。

【年齢別の回答結果】



- ・ 年齢区分で見ると、20~30代では全体や他の区分に比べて「目指す必要がある」が多くなっているのが特徴的である。

第5章 自由意見からみる市民の考えについて

第5章では、市民の自由意見から「男女共同参画」に対する市民の考えを把握する。

【結果の要約】

- ・ 自由意見数が少なく、あくまでも参考として捉える必要があることを前提に記述する。
- ・ 「男女共同参画」は、男性にも女性にもあらゆる場面で性別を理由に差別することなく同様の機会が与えられることが目指すところであって、職場やコミュニティにおける男女比率に関する意見や身体的構造の違いに関する意見も含め、全ての事象について単に男女比率を50対50にするという数の問題が「男女共同参画」の目指すところであると誤認している様に窺える。

(1) その他意見、自由意見（原文ママ）

- ・ 参考として主だったものを列挙

20代 男性	生物学的に男女に違いがあることは明確なので、完全なる男女平等は無理である。男女共同参画社会の実現は重要視する部分では無い。
20代 女性	根室市役所に勤務している男性職員がまず、男女平等や妊娠出産についてきちんと理解をし、相手の気持ちを考えられない様な発言、女性を不利にするような発言をしないように徹底するべきだと思います。市民に、セクハラ、パワハラ、マタハラだと言いたいなら、まず市役所の職員から徹底したらどうですか？市役所内でその様な事実がないと思ってるなら大間違えですよ。どうか根室市も女性が働きやすく、妊娠出産後の復帰がしっかり出来る女性の生きやすい市にしてください。せっかく市長が子育て支援しっかりしてくださってるんです。その子育てをしてる親たちも働きやすい社会になることを願ってます。
30代 男性	賃金が少なく、主婦や主夫を選択できない社会構造に問題がある。女性でも男性でも仕事よりも家庭を優先したい人がいるのに、そこを無視して社会に出させようという動きが少子化を推進させていることに気づいていない。そして、一度辞めても復職しにくい人事制度や、能力を活かせる職場が不足していることも人口の流出を助長している。
40代 男性	根室市では、市職員全体の男女割合に比率に比べ、女性管理職の比率が非常に低くなっている。行政が積極的に指導的地位に占める女性の割合を増やすことで、ロールモデルとなり民間企業への波及効果を期待する。また市の主催する会議においてもどちらか少ない方の性別を少なくとも3割以上入れることをガイドラインとして定め、パリティを導入していくといった具体的な取り組みを行うことが必要である。
40代 女性	掃除を手伝ってくれない。ゴミをまとめて捨てたりしないといけない。国家資格を取得しても配置転換してくれない。20年以上の勤続年数なのに年下の年数も下の男性高卒者と給料の差がさほどない。

40代女性	<p>自営業が多い地域なので男性優位が強いと思う。年配の方達は、男性に向かってしか話さないし女性や年下の人の話を聞いていない。意味のない年功序列や嫁いびりも強い。女性が発言すると白い目で見られる。家業の家に女の子が産まれると跡継ぎがいらないと考える。外国人差別あり。まずは実現に向けて柔軟な理解を深めるところから</p>
40代女性	<p>市役所で女性管理職を増やしても、漁協をはじめとする市内企業も同じように取り組まなければ、根室市の男女差はなくならないと思う。新しいことを受け入れない街の雰囲気を変えられるような取り組みができると良いのにと 생각합니다。</p>
40代女性	<p>まずは市役所のような市民へ状況が伝わりやすいところから管理職の男女比、各種会議の参加比率などを平等にしていくようにして欲しい。また、女性が結婚、出産などで環境が変わっても働きやすい環境を用意して欲しい。若い人や女性など立場が弱くなりがちな人の意見をすくい上げて欲しい。</p>
50代男性	<p>市役所自体がハラスメントの塊だと思う。市役所を訪れる市民に対する対応や言葉使いなど。市役所職員は公務員としての立場を利用しすぎだと思う。市役所職員は市民の目線で物事を考えるべきであるとおもう。所詮男は男、女は女、どちらもどれだけ努力しても異性に近づく事はできないが、何かをする時は互いの利点を共有する事は出来ると思う。単に男女平等と言うのではなく利点の活用じゃなくなってしまうと思う。最後にこのアンケートを作成した人達に言いたい、アンケートの作り方が素人で所詮公務員。このアンケートでは何も変えられないのでは？</p>
50代女性	<p>根室市は地域のジェンダー平等ができていない。第一次産業の街なので役割分担としてしかたない部分もありますが、もう少し、男性優位な部分を理解し、次世代の夫婦に口出しせず、嫁だから、妻だから、母だから、私もかつてそうしたからと古い体質を押し付けないでほしいです。</p>
50代女性	<p>男女共同参画もダイバーシティも同性婚も人種もすべて、「個人の尊重」だと思います。ひとりひとりが自分の人生を自分らしく生きるために、他者への理解や愛情を持てる社会こそがすべての人にとって生きやすい社会ではないでしょうか。人は知らずに傷つけることもあります。セクハラやマタハラなどは、知らずにやってしまう人も多いかもしれません。やってしまう側を一方向的に責める気はありませんが、やってしまう側が気づくことがとても重要です。気づきがあって初めて、社会は進歩すると思います。差別が社会問題になるアメリカなども、歴史を振り返ると差別との闘いが今でも続きながらも、憲法の解釈や新しい法律ができ、年々多様な生き方を認める方向へと進歩しています。女性の立場からすると、まだまだ根室は気づきが少ないと感じます。日本という国自体が世界的に見ると女性の社会的地位が低いとされています。この国で先駆的な取り組みを始めることは壁が高いのも理解できますが、根室市が他の市よりも先行して多様な人の人生を尊重できる社会を作り上げる取り組みをすることができれば、若い人の移住なども増えるのではないのでしょうか。地域社会という小さなコミュニティで、新しい仕組みに果敢に取り組む姿勢は、必ず評価され街の将来にも良い影響を与えられると思います。具体的にどうしたら良いかはとても難しいですが、さきほど書いたように「気づく」こと、そして「取り組む姿勢を可視化する」ことが重要ではないかと思っています。男女共同参画を目指す姿勢も大切ですが、「結果を伴う姿勢の可視化」が必要です。つまり根室のような小さな街では、やはり市長のトップダウンや市役所改革は、広く市民の意識改革には有効だと思います。また「女性が活躍する姿の可視化」も重要です。市役所での女性の役職ももちろんですが、女性議員を増やすための施策（議員の性別割りあいを決めることも一案ではありますが、この点はまだ深く突き</p>

	<p>詰めていません)、市の事業の一部を女性をトップとした外部委託するなど。考えられる施策はいくつも可能性があると思います。「可視化」をテーマに今後取り組みを進めていただければ、市民の意識も少しずつ変わっていき、女性が活躍するだけでなく、男性も女性も、性別や人種、障害などにも関係なく、全ての人に平等な機会が与えられる社会が構築できると思います。</p>
60代男性	<p>生物学的に何百万年もかけて両性の役割と機能が合理的に進化してきた。ここ数十年で急激に進んだ社会科学的な両性のあり方に対して、生物学的な進化が追い付かないから無理が生じているのです。</p>
60代女性	<p>これからは多様性、主体性、ジェンダーなど重視されなければならないので、頑張って推進していただきたいです。</p>
70歳以上女性	<p>地域はまだまだ男性優位社会であると感じる。市役所でも、管理職の女性職員はほとんどいないし、様々な委員会、協議会でも女性が圧倒的に少ない。男性ばかり多いところで協議している社会が平等であるとはとても思えない。男女共同参画社会を真に目指すために、教育がとても重要であると考えている</p>
70歳以上女性	<p>根室市の取り組みとしては、まだまだ女性管理職が不足しているので、積極的に目指せる環境作りをしてほしい。</p>
70歳以上女性	<p>男女共同参画社会とかはかえって区別をしているような気がします。例えば女性管理職の登用…等は、仕事ができる人を管理職にすべきで、そこには男女の違いは無く、むしろ差別をしていると思えてしまいます。できる人ができることをする…そこには男女も年齢も関係ないというようになれば理想的だと思います。</p>

第6章 まとめ

第1章から第5章に示した今回のアンケート結果を踏まえると、次の5つが市民の意識に内在していると窺え、これらに関する施策を展開することが効果的であると考えられる。

- ・ ①日常生活全般において、男性以上に女性が男性優位と感じており、特に、職場においてはその傾向が顕著で、年齢層が上がるに従ってその傾向が強くなる。
- ・ ②性別による固定的な役割分担意に対する意識やハラスメント被害の状況を見ても、男性は女性に対し性差別を行っている自覚が低いことが窺える。
- ・ ③男性も家事や育児を実施するべきと感じているが、何らかの事情により実現できていない状況が窺える。
- ・ ④「男女共同参画」について正しく理解されていない状況が窺える。
- ・ ⑤市民の意識を変えていく方法として、「学校での男女共同教育が重要」であると考えられる意見が多く、年齢や性別によって考え方に違いはあるものの、「職場でのセクシャル・ハラスメントやマタニティ(パタニティ)・ハラスメント対策を進める」、「市役所がロールモデルになることで市民にも浸透していく」と考える市民が多いことが窺える。

